

FMV
DESKPOWER
LX60T

B5FJ-0831-01

FMV取扱ガイド

1 各部の名称と働き

2 パソコンの取り扱い

3 周辺機器の
設置／設定／増設

4 お手入れ

5 取り扱い上の注意

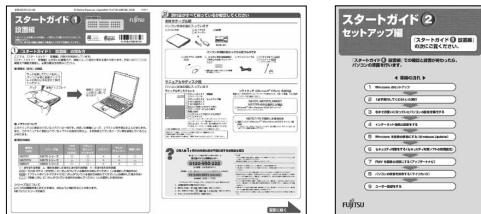
6 仕様一覧

FUJITSU



冊子のマニュアル

スタートガイド（1 設置編 2 セットアップ編）



使い始めるまでの準備はこれでバッチリ

- 『スタートガイド1 設置編』
- 『スタートガイド2 セットアップ編』

FMV活用ガイド



- 画面上での基本的な使い方
- FMVのおすすめ活用法
- 画面マニュアルの使い方
- マイリカバリ
- バックアップ
- トラブル解決Q&A
- リカバリ（ご購入時の状態に戻す）
- 廃棄・リサイクル

FMV取扱ガイド



- 各部の名称と働き
- パソコンの取り扱い
 - ・電源の入れ方/切り方
 - ・音量の調整
 - ・輝度の調整 etc.
- 周辺機器の設置/設定/増設
- お手入れ
- 仕様一覧

FMVで見る・録る・残すガイド



テレビチューナー内蔵機種に添付

- テレビについて
 - ・テレビの見かた
 - ・録画のしかた
 - ・保存のしかた
- テレビなどに関するQ&A

サポート&サービスのご案内



- ユーザー登録・特典
- AzbyClubのご案内
- 困ったときは
- 故障かな？と思ったときは
- お問い合わせ先
- 操作指導サービス
- お問い合わせ票/修理依頼票



画面で見るマニュアル

説明している主な内容

- パソコンの基本
- セキュリティ対策
- インターネット/Eメール
- FMV使いこなし事例集
- パソコン本体の取り扱い
- 周辺機器の接続
- 添付ソフトウェア一覧
- 困ったときのQ&A
- etc.



画面で見るマニュアルの始め方

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「富士通サービスアシスタント（マニュアル&サポート）」の順にクリック
- 2 「画面で見るマニュアル」をクリック



テクニカルコミュニケーション協会が定める
「画面で見るマニュアル標準マーク」です。

冊子のマニュアルの本文内に、»「* * * * * * (文書番号)」とある場合は、「画面で見るマニュアル」で検索してご覧ください。

参照

▼ Windows の画面について

『画面で見るマニュアル』»「920010」で検索
→ 「Windows の画面と各部の名称」

文書番号 : »の横にある6桁の数字



文書番号 (6桁の数字) を
入力して「検索する」を
クリック

- ① 「検索」をクリック
- ② 文書番号 (6桁の数字) を入力
- ③ 「検索する」をクリック

文書番号の内容が表示



「目次」、「検索」、「索引」など、他にもいろいろな探し方があります。
「画面で見るマニュアル」について詳しくは、『FMV活用ガイド』の
「パソコンの画面で見るマニュアルを活用する」をご覧ください。

目次

この本で見つからない情報は、「画面で見るマニュアル」で！

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→
「 富士通サービスアシスタント(マニュアル&サポート)」の「画面で見るマニュアル」

安全にお使いいただくために	4
このマニュアルの表記について	4

第1章 各部の名称と働き

1 パソコン本体前面	8
2 パソコン本体側面	9
パソコン本体左側面	9
パソコン本体右側面	11
3 パソコン本体背面	12
4 パソコン本体内部	13
5 キーボード	14

第2章 パソコンの取り扱い

1 電源を入れる／切る	18
接続を確認する	18
電源を入れる	19
電源を切る	21
2 音量を調節する	24
3 画面の明るさを調節する	25
4 ワンタッチボタンを使う	26
5 CD/DVD を使う	27
このパソコンで使える CD/DVD	27
CD/DVD をパソコンにセットする／取り出す	29
6 メモリーカードを使う	32
使えるメモリーカード	32
メモリーカードをセットする／取り出す	34
7 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを使う	37
使用に適した配置	37
お使いになるとときの注意事項	38
乾電池を交換する	40
ID 設定をする	41
光学式マウスについて	44
ワイヤレスキーボードの収納について	44
8 LAN (有線 LAN) 機能を使う	45
このパソコンの LAN 機能	45
インターネットを使うときの接続例	45
LAN (有線 LAN) をお使いになる場合	46

第3章 周辺機器の設置／設定／増設

1 周辺機器をお使いになる場合	48
周辺機器とは？	48
周辺機器を取り付けると	48
周辺機器を取り付けるには	48
周辺機器の取り扱い上の注意	49
2 本体力バーを取り外す／取り付ける	51
本体力バーを取り外す	52
本体力バーを取り付ける	53
3 メモリの増設／交換	54
メモリの取り付け場所	54
取り付けられるメモリ	55
メモリの取り扱い上の注意	56



メモリを増やす	57
メモリ容量を確認する	59
第4章 お手入れ	
1 FMVのお手入れ	62
パソコン本体および添付品のお手入れ	62
液晶ディスプレイのお手入れ	63
パソコン本体内部や通風孔のお手入れ	64
第5章 取り扱い上の注意	
1 パソコンを移動する場合の注意	74
パソコンを移動する場合の注意	74
2 添付コアの取り付け方	75
第6章 仕様一覧	
1 パソコン本体の仕様	78
仕様一覧の注記について	80
2 その他の仕様	82
液晶ディスプレイ	82
内蔵スピーカー	82
LAN機能	83
ワイヤレスキーボード（ワンタッチボタン付、無線方式、抗菌）	83
ワイヤレスマウス（光学式）	84
索引	85

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、『安心してお使いいただくために』の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

このマニュアルの表記について

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。



本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
 参照	参照先を記述しています。
 参照	参照していただきたいマニュアルを記述しています。
 冊子	冊子のマニュアルを表しています。
 画面	画面で見るマニュアルを表しています。 (起動方法について、このマニュアルの巻頭でご案内しています。)
 CD-ROM	CD-ROM／DVD-ROMを表しています。

パソコンの電源状態について

このマニュアルでは、パソコンの電源を入れたときの状態を、それぞれ次のように表記しています。

パソコンの状態	このマニュアルでの表記
Windows XP Home Edition が起動している状態。	Windows が起動しているとき

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

正式名称	このマニュアルでの表記
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition または Windows
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ
抗菌キーボード [注] 注：抗菌処理部分：キーボードのキートップ部分 (キーボードのキートップ部分に刻印された文字およびワンタッチボタンは除く)	キーボードまたは ワイヤレスキーボード
ワイヤレスマウス (光学式)	マウスまたはワイヤレスマウス
富士通サービスアシスタント V3.6	サービスアシスタント
xD-Picture Card™、xD-ピクチャーカード™	xD-ピクチャーカード

商標および著作権について

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の登録商標または商標です。SD カードおよび SD ロゴは、SD ASSOCIATION の商標です。「メモリースティック」、「マジックゲート」は、ソニー株式会社の商標です。xD-Picture Card™、xD-ピクチャーカード™ は、富士写真フィルム株式会社の商標です。その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright © FUJITSU LIMITED 2006
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

ドルビー、DOLBY、AC-3、プロロジック及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

当社は、国際エネルギーestarプログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギーestarプログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



第1章

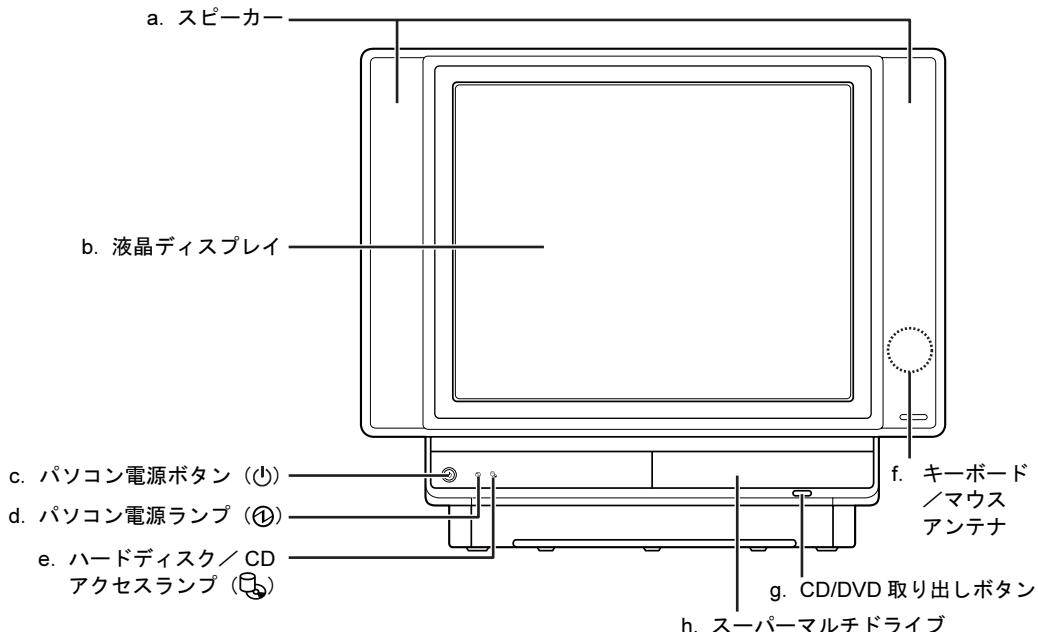
各部の名称と働き

パソコンの各部の名称と働きについて説明しています。

1 パソコン本体前面	8
2 パソコン本体側面	9
3 パソコン本体背面	12
4 パソコン本体内部	13
5 キーボード	14

1 パソコン本体前面

ここでは、代表的な機能を説明しています。



a. スピーカー

パソコンの音声を出力します。

b. 液晶ディスプレイ

パソコンの画面を表示します。

c. パソコン電源ボタン (P.18)

パソコン本体の電源を入れるときと切るときに押します。

d. パソコン電源ランプ

パソコン本体の電源が入っているときは緑色、スタンバイ時はオレンジに点灯します。

e. ハードディスク／CD アクセスランプ

ハードディスクや CD/DVD のデータを読み書きしているときに点滅します。

f. キーボード／マウスアンテナ

キーボードやマウスからの信号を受けます。

g. CD/DVD 取り出しボタン

スーパーマルチドライブにディスクをセットする、または取り出すときに押します。

h. スーパーマルチドライブ (P.27)

CD/DVD のデータの読み出しや書き込みをしたり、音楽 CD を再生したりします。

パソコン本体前面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』> 「000270」で検索

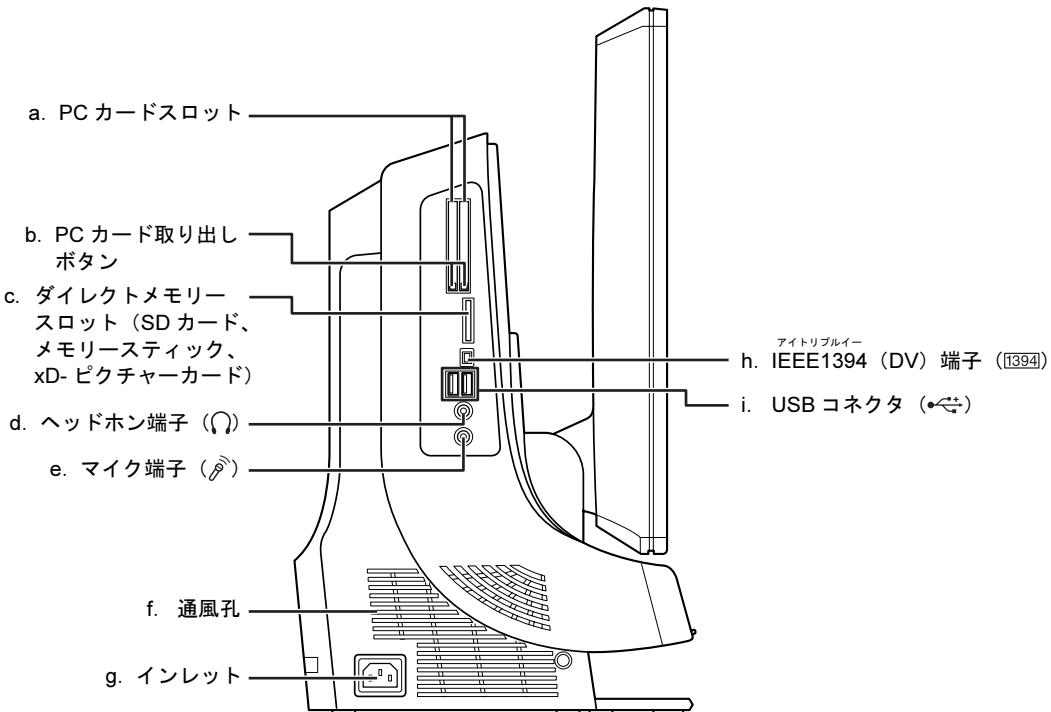
→ 「各部の名称と働き：パソコン本体前面」



2 パソコン本体側面

ここでは、代表的な機能を説明しています。

パソコン本体左側面



a. PCカードスロット

別売のPCカードをセットします。

b. PCカード取り出しボタン

PCカードを取り出すときに押します。

c. ダイレクトメモリースロット (SDカード、メモリースティック、xD-ピクチャーカード) (P.32)

SDメモリーカード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードをセットするためのスロットです。miniSDカードやメモリースティック Duoなどは、アダプタを使用してください。

d. ヘッドホン端子

市販のヘッドホンを接続します。

e. マイク端子

市販のプラグインパワータイプのマイクを接続します。

f. 通風孔

パソコン本体外部に空気を排出して熱を逃がすための開孔部です。

g. インレット

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

h. IEEE1394 (DV) 端子

デジタルビデオカメラ (DVC) や IEEE1394規格の周辺機器を接続するための端子です。

i. USBコネクタ

デジタルカメラ、プリンタなどのUSB規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

パソコン本体左側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

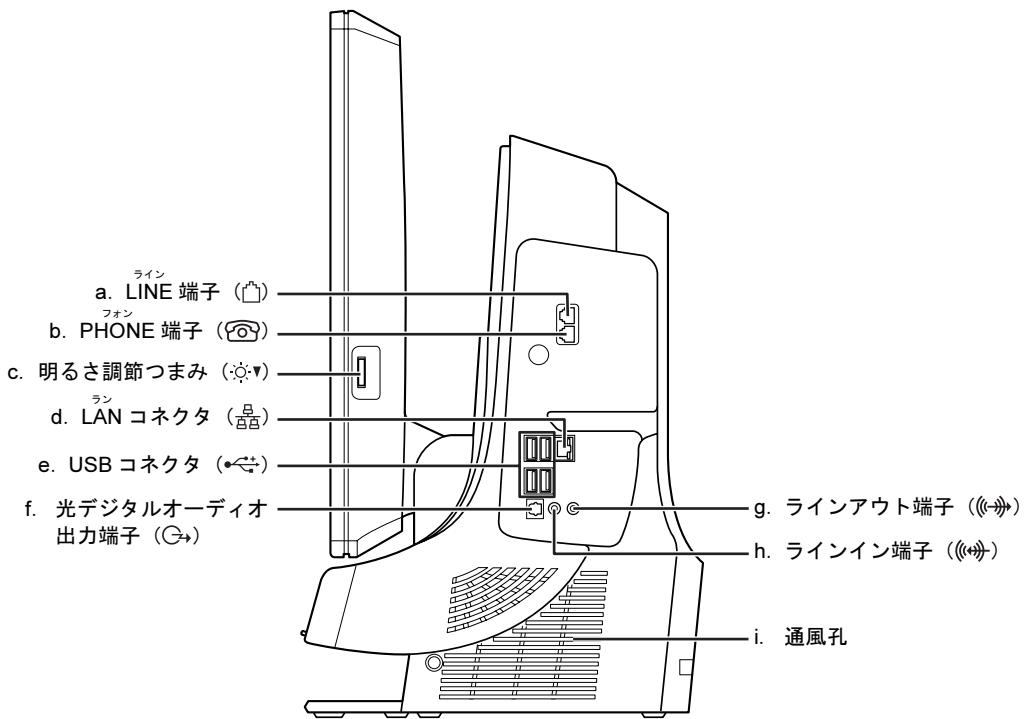


『画面で見るマニュアル』»  「000280」で検索

→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体左側面」



パソコン本体右側面



a. LINE 端子

電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

b. PHONE 端子

電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

c. 明るさ調節つまみ (P.25)

画面の明るさを調節します。

d. LAN コネクタ (P.45)

LAN ケーブルを接続します。

e. USB コネクタ

デジタルカメラ、プリンタなどの USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

f. 光デジタルオーディオ出力端子

市販の光デジタルオーディオケーブルを接続します。

g. ラインアウト端子

オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

h. ラインイン端子

オーディオ機器などの音声出力端子を接続します。

i. 通風孔

パソコン本体外部に空気を排出して熱を逃がすための開孔部です。

パソコン本体右側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

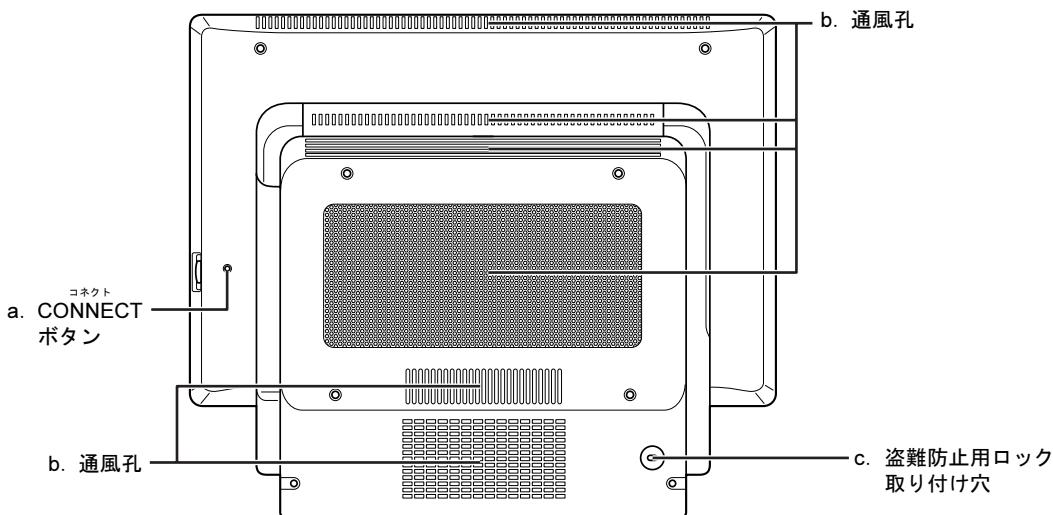


『画面で見るマニュアル』» 「000280」で検索

→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体右側面」

3 パソコン本体背面

ここでは、代表的な機能を説明しています。



a. CONNECT ボタン

キーボードやマウスの ID 情報を設定します。

b. 通風孔

パソコン本体外部に空気を排出して熱を逃がすための開孔部です。

c. 盗難防止用ロック取り付け穴

盗難防止用ケーブルを接続できます。

パソコン本体背面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照



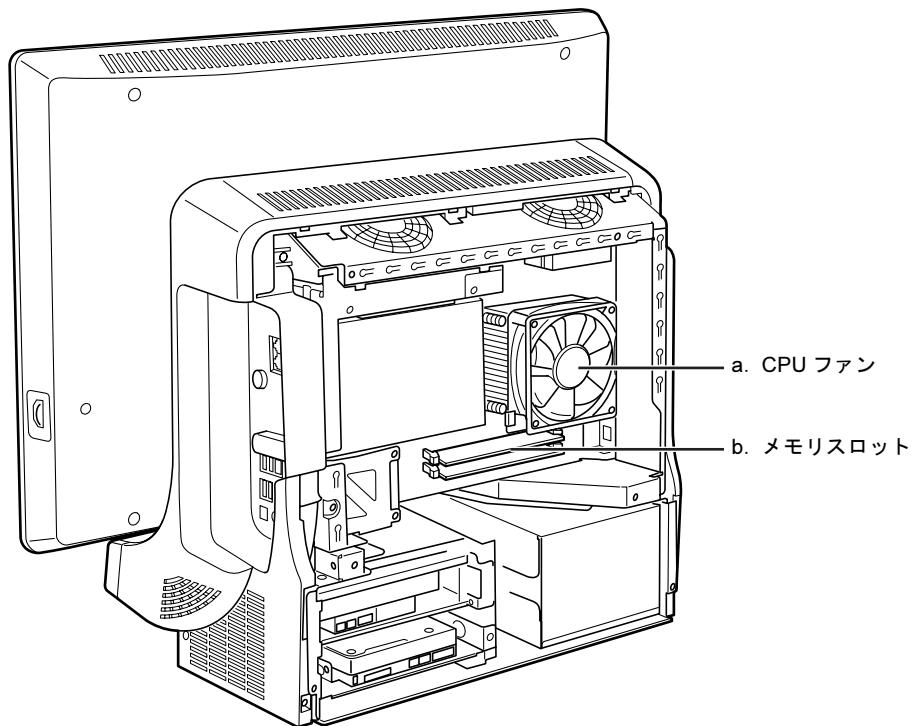
『画面で見るマニュアル』» 「000300」で検索

→「各部の名称と働き：パソコン本体背面」



4 パソコン本体内部

ここでは、代表的な機能を説明しています。



a. CPU ファン

パソコン本体内部の温度を下げるためのファンです。

b. メモリスロット (…▶P.54)

増設するメモリを取り付けられます。

パソコン本体内部の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

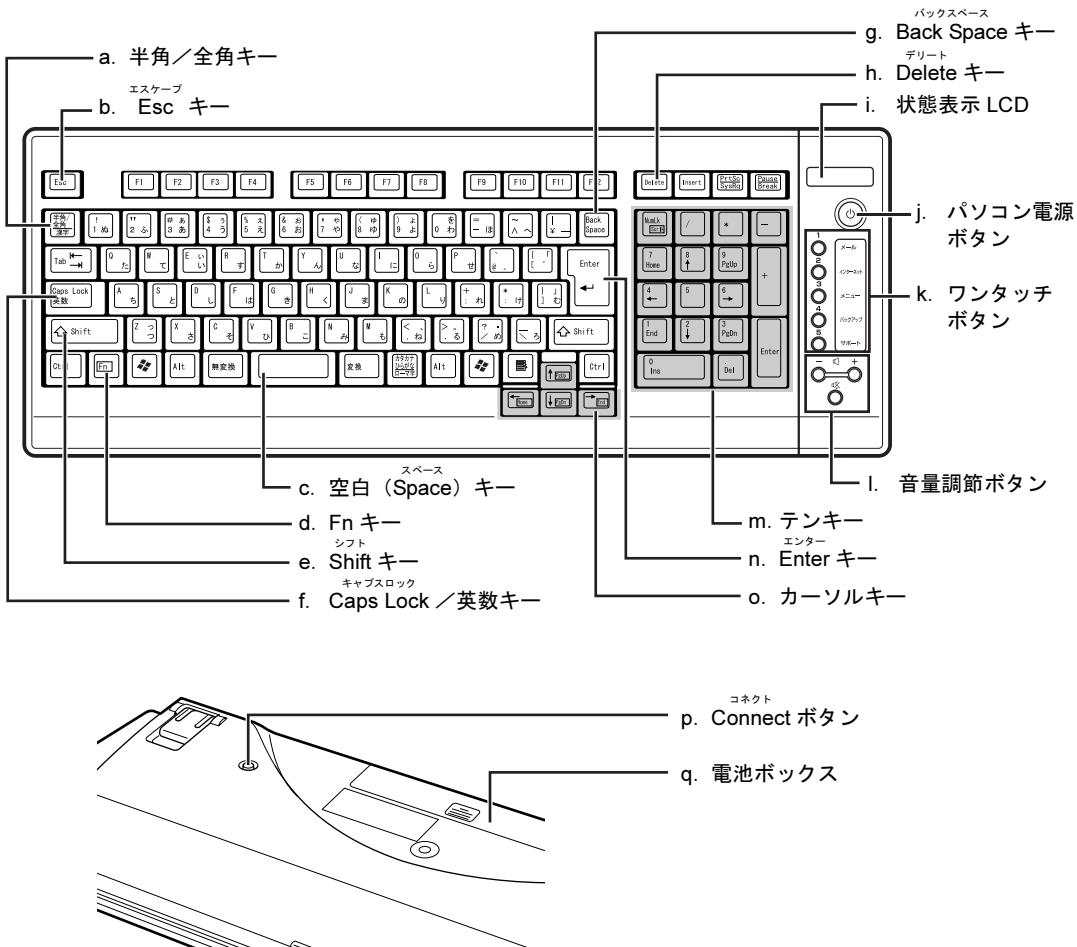
参照

『画面で見るマニュアル』» 「000290」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体内部」

本体カバーの取り外し／取り付け方法については、「本体カバーを取り外す／取り付ける」(…▶P.51) をご覧ください。

5 キーボード

ここでは、代表的な機能を説明しています。



a. 半角／全角キー

文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。全角になると、日本語入力ができます。

b. Esc キー

実行中の作業が取り消されます。

c. 空白 (Space) キー

空白を入力できます。

d. Fn キー

このキーを押しながら [] で囲まれたキーを押すと、カーソルを行の先頭に移動したり、文書の先頭に移動したりできます。

e. Shift キー

[Shift] を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

f. Caps Lock／英数キー

アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

g. Back Space キー

カーソルの左側の文字が削除されます。

h. Delete キー

カーソルの右側にある1文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコン、文字列を削除します。

キーボードの各部の名称と働きについて、その他のキーと詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照



『画面で見るマニュアル』»  「000220」で検索

→ 「各部の名称と働き：キーボード」

i. 状態表示 LCD

キーボードやマウスの電池残量などが表示されます。

j. パソコン電源ボタン (P.18)

パソコン本体の電源を入れるときと切るときに押します。

k. ワンタッチボタン (P.26)

インターネットの接続などを行います。

l. 音量調節ボタン (P.24)

パソコン本体の音量を調節します。

m. テンキー

数字や記号を入力できます。

n. Enter キー

入力した文字を確定するときなどに使います。リターン（改行）キーともいいます。

o. カーソルキー

カーソルが上下左右に移動します。

p. Connect ボタン

キーボードの ID を設定するときに押します。

q. 電池ボックス

キーボード用の乾電池（アルカリ単3電池2本）を入れます。

Memo

2

第2章 パソコンの取り扱い

最初に確認していただきたいことと、使用上の注意事項などを説明しています。

1 電源を入れる／切る	18
2 音量を調節する	24
3 画面の明るさを調節する	25
4 ワンタッチボタンを使う	26
5 CD/DVD を使う	27
6 メモリーカードを使う	32
7 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを使う	37
8 LAN（有線 LAN）機能を使う	45

1 電源を入れる／切る

電源の入れ方と切り方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。

⚠ 注意



- ・CDやDVDをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVDドライブのトレーに指などを入れないでください。

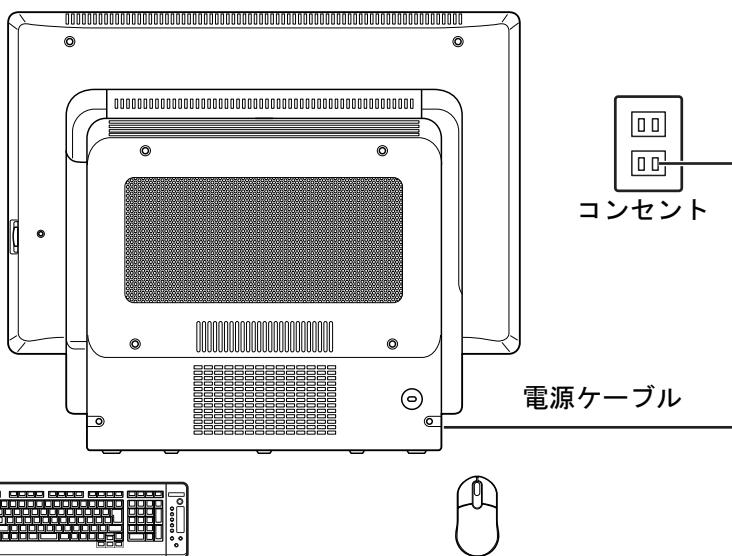
けがの原因となることがあります。



- ・電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
故障の原因となります。

接続を確認する

電源を入れる前に、ケーブル類が正しく接続されているか確認してください。



ワイヤレスキーボード [注]

ワイヤレスマウス [注]

注：添付の乾電池が正しく入っているか確認してください。



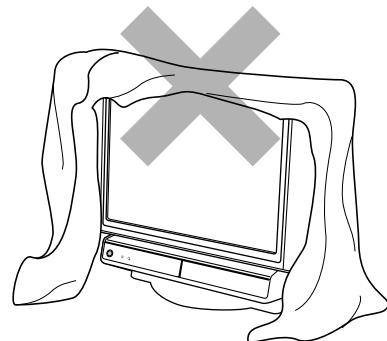
電源を入れる

ここでは電源の入れ方のうち Windows を起動する方法を説明しています。

※ 重要

パソコン電源を入れるときの注意

- ・パソコン電源を切った後は、次にパソコン電源を入れ直すまで 10 秒ほどお待ちください。
- ・パソコンに布などのカバーをかけている場合は、必ずそれらを完全に取り外してからパソコン電源を入れてください。パソコンの通風孔などが布などでふさがれたまま使用すると、パソコン内部に熱がこもり、動作不良や本体カバーの変形が起きことがあります。
- ・電源を入れた後は、手順 4 の画面が表示されるまでは電源を切らないでください。手順 4 の画面が表示される前に電源を切ると、パソコンの動作が不安定になります。



しばらく操作しないと

パソコン電源を入れた状態でしばらく（約 5 分間）操作しないと、動画（スクリーンセーバー）が表示されたり、画面が真っ暗になったりすることがありますが、パソコン電源が切れたわけではありません。これはパソコンの省電力機能が働いている状態です。

マウスを動かしたり、キーボードの     や  のどれかを押したりすると、元の画面に戻ります。

1 パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 電源ケーブルがコンセントに接続されていない場合は、電源プラグをコンセントに差し込みます。

※ 重要

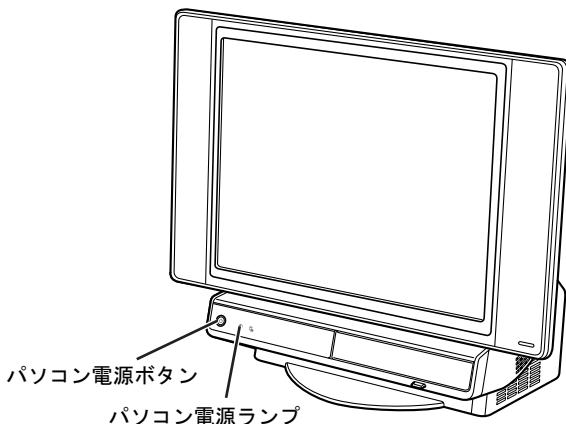
コンセントに接続すると

電源ケーブルをコンセントに接続すると、数秒間電源ランプが点灯して電源が入ったような状態になりますが、故障ではありません。

次のページへ 

3 パソコン電源ボタンを押します。

パソコン電源ランプが点灯し、画面にさまざまな文字などが表示されます。そのまま、しばらくお待ちください。

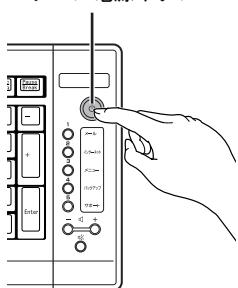


POINT

パソコン電源を入れる方法はいろいろあります

ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンでもパソコン電源を入れることができます。

パソコン電源ボタン



4 このような画面が表示されたことを確認します。



(画面は状況により異なります)

POINT

Windows が起動しない場合

パソコン電源を入れても Windows が起動しない場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照



『FMV 活用ガイド』

→「トラブルかなと思ったら (Q&A)」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」

→「Q パソコンの電源が入らない、画面に何も映らない [DESKPOWER]」

2

電源を切る

ここでは電源の切り方のうち Windows を終了する方法を説明しています。

1 それまで行っていた作業を終了します。

ソフトウェアを起動している場合は、作業中のデータを保存し、ソフトウェアを終了します。

例えばワープロソフトを使って文書を作成中の場合は、文書データを保存し、ワープロソフトを終了します。

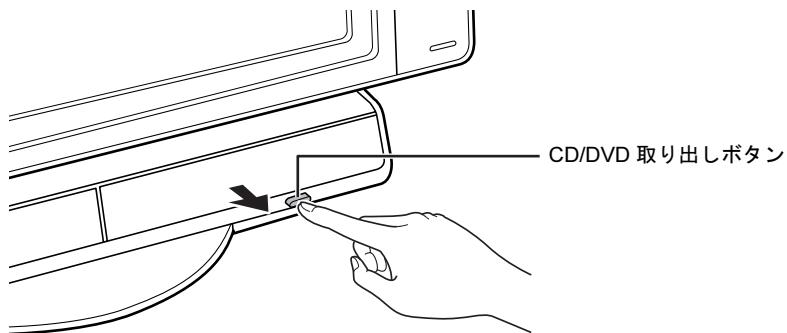
POINT

ソフトウェアを終了しなかった場合

ソフトウェアを起動したままでもこれ以降の操作を進められますが、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤動作の原因となるので、あらかじめデータを保存した後、ソフトウェアを終了してください。

2 CD や DVD などがセットされていたら、パソコン本体前面の CD/DVD 取り出しボタンの中央を押して取り出します。

■パソコン本体前面



POINT

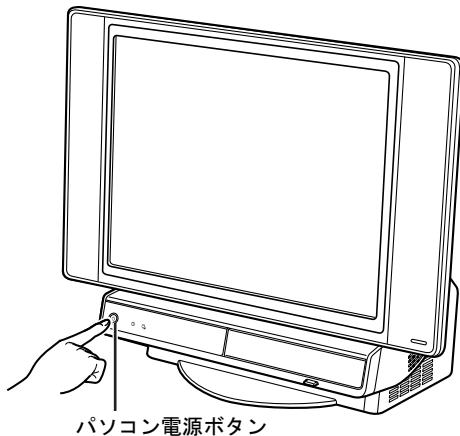
CD や DVD などを入れたままだと

パソコン電源を切ってしまうと、CD や DVD などは取り出せません。

次のページへ

3 パソコン電源ボタンを押します。

しばらくすると Windows が終了し、パソコン電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン電源ランプが消えます）。Windows が終了するまでにしばらく（約 20 秒）時間がかかりますが、そのままお待ちください。



重要

パソコン電源ボタンは押し続けないでください

パソコン電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、Windows などの正常な終了処理ができないまま、強制的にパソコン電源が切れてしまいます。



POINT

パソコン電源を切る方法はいろいろあります

・「スタート」ボタンからパソコン電源を切る

1. 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。

2. 「電源を切る」をクリックします。

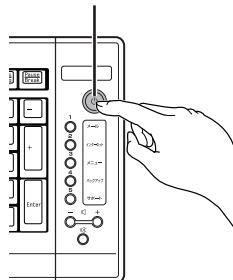
しばらくすると Windows が終了し、パソコン電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン電源ランプが消えます）。Windows が終了するまでにしばらく（約 20 秒）時間がかかりますが、そのままお待ちください。

・ワイヤレスキーボードでパソコン電源を切る

1. ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを押します。

しばらくすると Windows が終了し、パソコン電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン電源ランプが消えます）。Windows が終了するまでにしばらく（約 20 秒）時間がかかりますが、そのままお待ちください。

パソコン電源ボタン



パソコン電源が切れない場合

パソコンが動かなくなり（マウスやキーボードが操作できないなど）、パソコン電源が切れないときは、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『FMV 活用ガイド』

→「トラブルかなと思ったら（Q&A）」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」

→「Q 操作中に画面が動かなくなった」

それでも電源が切れないときは、パソコン電源ボタンを 4 秒以上押し続けて、強制的にパソコン電源を切ってください。

パソコン電源を切った後、パソコン電源ランプが消えている（パソコン電源が切れている）ことを確認してください。パソコン電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、スタンバイ状態になっているためパソコン電源が切れていません。もう一度パソコン電源ボタンを 4 秒以上押し続けてパソコン電源を切ってください。

4 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

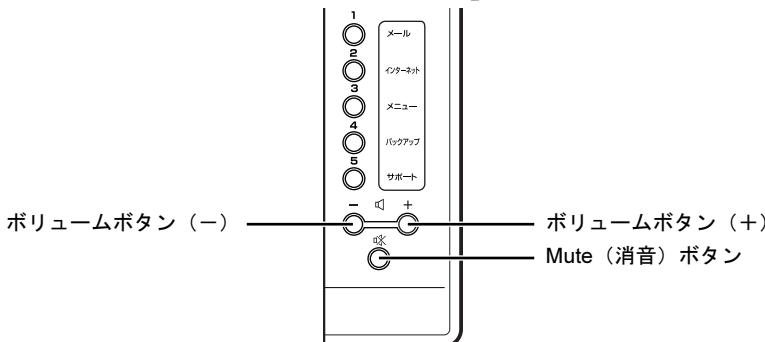
2 音量を調節する

ここでは、キーボードの音量調節ボタンから音量を調節する方法について説明します。

キーボードの音量調節ボタンは、Windowsが起動している場合に音量を調節できます。

1 キーボード右側にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

ボリュームボタン（-）を押すと小さく、ボリュームボタン（+）を押すと大きくなります。Mute（消音）ボタンを押すと音が消え、画面右下の通知領域にある表示がに変わります。もう一度押すと元の音量に戻り、表示もに戻ります。



（イラストは状況により異なります）

通知領域の^①（音量）など、他の方法でも音量を調節できます。

参照

▼他の方法で音量を調節する場合

『画面で見るマニュアル』» 「000190」で検索

→「音量を調節する」



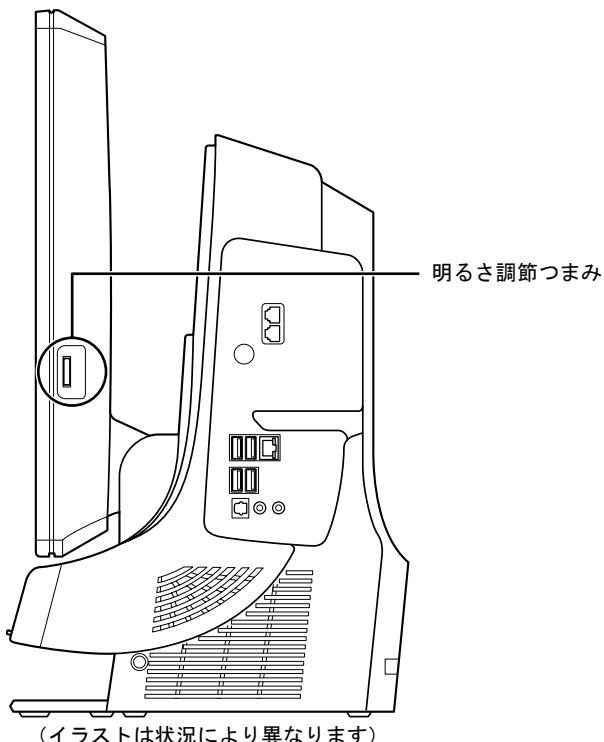
3 画面の明るさを調節する

ここでは、液晶ディスプレイの明るさを調節する方法について説明します。

パソコン本体右側面の明るさ調節つまみを回して、液晶ディスプレイの明るさを変更することができます。

1 パソコン本体右側面にある明るさ調節つまみを回して、適切な明るさに調節します。

明るさ調節つまみを上に回すと明るく、下に回すと暗くなります。



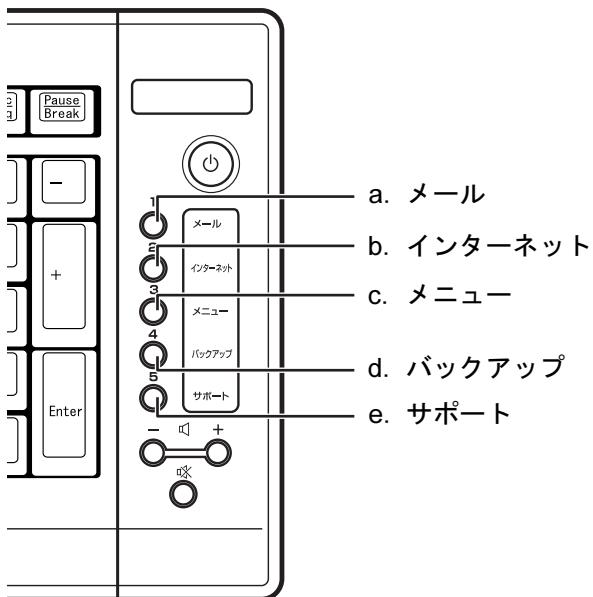
詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。

参照

 『画面で見るマニュアル』 >  「000180」で検索
→ 「液晶ディスプレイの明るさを変更する」

4 ワンタッチボタンを使う

ワンタッチボタンは、パソコンの各種機能を呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでソフトウェアの起動やEメールの受信などが行えます。



a. メール

メールソフトが起動します。

b. インターネット

「Internet Explorer」が起動します。

c. メニュー

「@メニュー」が起動します。

d. バックアップ

「FM かんたんバックアップ」が起動します。

e. サポート

「サービスアシスタント」が起動します。

参照

▼ワンタッチボタンについて



『画面で見るマニュアル』



「000330」で検索

→「各部の名称と働き：ワンタッチボタン」



5 CD/DVD を使う

ここでは、このパソコンで使えるディスクや、CD や DVD をパソコンにセットしたり取り出したりする方法について説明します。

このパソコンで使える CD/DVD

使えるディスク

このパソコンでは、8cm または 12cm の CD や DVD がお使いになります。

なお、CD や DVD にはさまざまな種類があります。このパソコンでお使いになることできる CD や DVD は、次のとおりです。

- ・ CD

CD-ROM、音楽 CD、フォト CD、ビデオ CD、CD-R、CD-RW を表します。

- ・ DVD

DVD+RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD-RW、DVD-R、DVD-R DL、DVD-ROM、DVD-VIDEO、DVD-RAM を表します。

このパソコンの CD/DVD ドライブの読み込み／書き込み／書き換え速度については、「パソコン本体の仕様」(☞P.78) をご覧ください。

推奨ディスク

次の CD-R/RW、DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW、DVD+R DL の使用を推奨します。

下記以外の CD-R/RW、DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW、DVD+R DL をお使いの場合は、書き込み／書き換え速度が低下することがあります。また、正常に書き込み／書き換えができない場合や再生できない場合があります。

- ・ CD-R

太陽誘電：CDR80WTY、CDR80WPY、CDR-74WPY

- ・ CD-RW

三菱化学メディア：SW74QU1、SW80QU1、SW74EU1、SW80EU1

- ・ DVD-RAM

松下電器：LM-HC47M (4.7GB、カートリッジ無)、

LM-HB47M、LM-HB47MA (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)、

LM-HB94M (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)

日立マクセル：DRM47C.1P (4.7GB、カートリッジ無)、

DRMC47C.1P (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)、

DRMC94C.1P (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)、

DRM120C.1P (4.7GB、カートリッジ無)、

DRMC240C.1P (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)、

DRM47D.1P (4.7GB、カートリッジ無)

- ・ DVD-R
太陽誘電：DR-47WTY
三菱化学メディア：DHR47JP
- ・ DVD-R DL
三菱化学メディア：DHR85YP1
- ・ DVD-RW
日本ビクター：VD-W47H
- ・ DVD+R
太陽誘電：DR+47WTY
三菱化学メディア：DTR47JP
- ・ DVD+R DL
三菱化学メディア：DTR85H1
- ・ DVD+RW
リコー：D8RWD-S1CW

※ 重要

DVD-RAM について

- ・ カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。
- ・ 2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。
- ・ 16 倍速対応のディスク（DVD-RAM2）は、使用できません。



CD/DVD をパソコンにセットする／取り出す

CD/DVD をセットする

CD/DVD は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットできます。

⚠ 注意



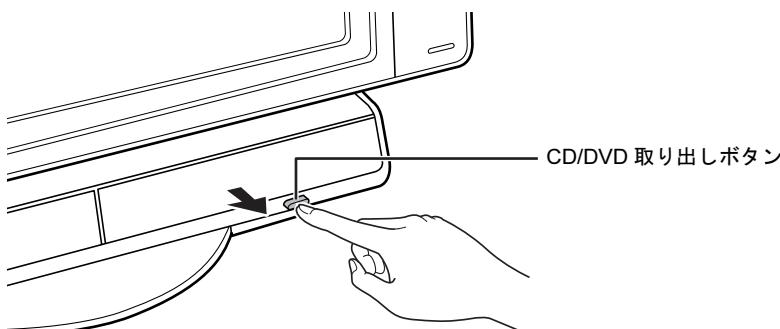
- CD や DVD をセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

1 パソコン本体の CD/DVD 取り出しボタンの中央を押します。

CD や DVD をセットするトレーが出てきます。

トレーは自動で出でます。無理に引き出したりしないでください。

■パソコン本体前面



(これ以降のイラストは状況により異なります)

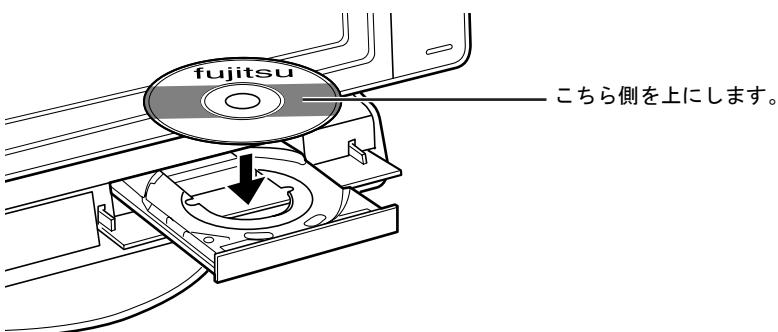
2 パソコンに CD/DVD をセットします。

ディスクのレーベル面を上に（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下に）して、セットします。

ディスクは正しい位置にセットしてください。位置がずれると、ディスクが落ちる可能性があります。

また、ディスクを入れたまま何度もトレーを開閉するとディスクの位置がずれることがありますので注意してください。

■パソコン本体前面



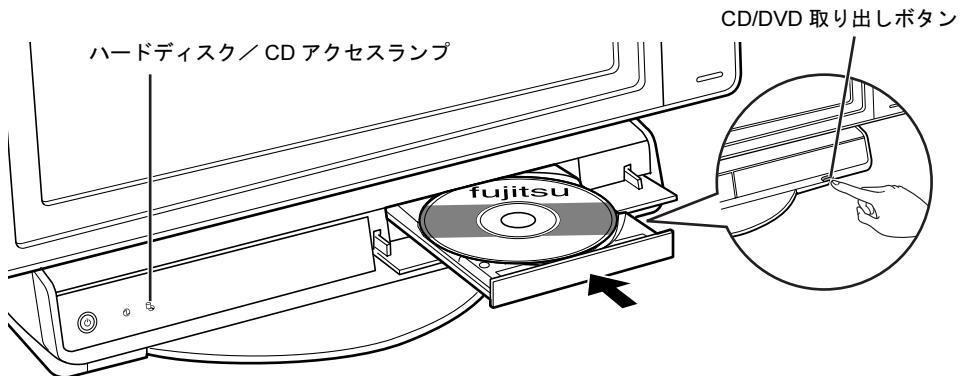
次のページへ

3 パソコン本体の CD/DVD 取り出しボタンの中央を押します。

トレーが戻ります。CD や DVD がセットされ、ハードディスク／CD アクセスランプが点滅します。ハードディスク／CD アクセスランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。

CD/DVD によっては、セットすると自動的に起動するものもあります。

■パソコン本体前面



POINT

「…Windows が実行する動作を選んでください。」という画面が表示された場合

ディスクをセットした後に、次のような画面が表示された場合は、「キャンセル」をクリックしてください。



(画面は機種や状況により異なります)



CD/DVD を取り出す

CD/DVD は、パソコンの電源が入っている状態のときに取り出すことができます。

⚠ 注意



- CD や DVD をセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
- けがの原因となることがあります。

2

- 1 CD や DVD を使っているソフトウェアがあれば、終了します。**
- 2 ハードディスク／CD アクセスランプが消えていることを確認し、パソコン本体の CD/DVD 取り出しボタンの中央を押します。**
CD や DVD がセットされたトレーが出てきます。
- 3 CD や DVD を取り出します。**
- 4 パソコン本体の CD/DVD 取り出しボタンの中央を押します。**
トレーが戻ります。

このパソコンでできることのご紹介

画面で見るマニュアルでは、次のようなことを説明しています。

この他にも様々な機能がありますので、詳しくは画面で見るマニュアルをご覧ください。

参照

- ▼ DVD を見る
- ▼ CD/DVD にデータを保存する
- ▼ CD に音楽を保存する



『画面で見るマニュアル』

→ 「8. 添付ソフトウェア一覧（カテゴリ別）」→ 「CD・DVD」

- ▼ 音楽 CD を聞く



『画面で見るマニュアル』

→ 「8. 添付のソフトウェア一覧（カテゴリ別）」→ 「音楽・音声」→ 「パソコンで音楽を楽しむ」

- ▼ このパソコンで使える CD/DVD について



『画面で見るマニュアル』» 「000050」で検索

→ 「このパソコンで使える CD/DVD」

6 メモリーカードを使う

ここでは、このパソコンでお使いになれるメモリーカードの種類や、メモリーカードのセット方法、および取り出し方法について説明しています。

SD メモリーカード、メモリースティックおよび xD- ピクチャーカードを総称して、メモリーカードと呼んでいます。

使えるメモリーカード

ダイレクトメモリースロット (SD カード、メモリースティック、xD- ピクチャーカード) は、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。

ダイレクトメモリースロット (SD カード、メモリースティック、xD- ピクチャーカード) が対応しているメモリーカードは次のとおりです。

- ・メモリースティック [注]
- ・メモリースティック
(メモリーセレクト機能付) [注]
- ・メモリースティック Duo [注]
- ・メモリースティック PRO [注]
- ・メモリースティック PRO Duo [注]
- ・SD メモリーカード
- ・miniSD カード
- ・xD- ピクチャーカード
- ・xD- ピクチャーカード Type M シリーズ
- ・xD- ピクチャーカード Type H シリーズ

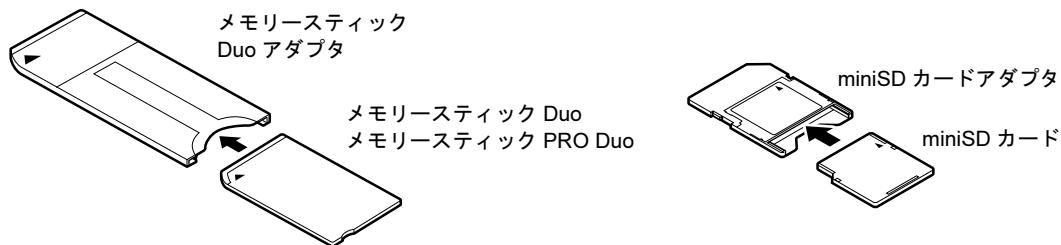
注：マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。



重要

アダプタが必要なメモリーカードについて

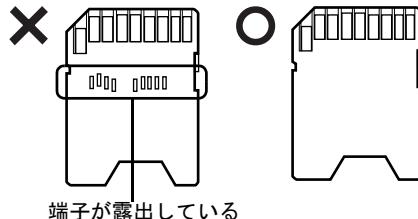
- メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo または miniSD カードをお使いの場合は、必ずアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。
- また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプタにセットしたまま取り出してください。アダプタだけをダイレクトメモリースロット（SD カード、メモリースティック、xD- ピクチャーカード）に残すと、故障の原因となります。
- メモリースティック Duo アダプタは、塗装部分が剥がれた状態では使用しないでください。ダイレクトメモリースロット（SD カード、メモリースティック、xD- ピクチャーカード）内部の端子が接触し、メモリースティック Duo またはメモリースティック PRO Duo を認識しなかったり、故障の原因となります。また、剥がれた塗装部分などにテープなどを貼って使用することもしないでください。アダプタが取り出せなくなる場合があります。



使えない miniSD カードについて

miniSD カードのアダプタには、裏面の中央部から端子が露出している製品がありますが、このタイプのアダプタは使用しないでください。ダイレクトメモリースロット（SD カード、メモリースティック、xD- ピクチャーカード）内部の端子が接触し、故障の原因となる場合があります。

miniSD カードのアダプタは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。



メモリーカードについては、次のマニュアルもご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』» 「000700」で検索
→ 「メモリーカードを使う」

メモリーカードをセットする／取り出す

⚠ 注意



- メモリーカードをセットまたは取り出す場合は、ダイレクトメモリースロット（SD カード、メモリースティック、xD-ピクチャーカード）に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

☞ 重要

- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。Windows でフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。
- テレビ番組の視聴中や録画中または録画予約の待機中は、メモリーカードのセットや取出しを行わないでください。

メモリーカードをセットする

POINT

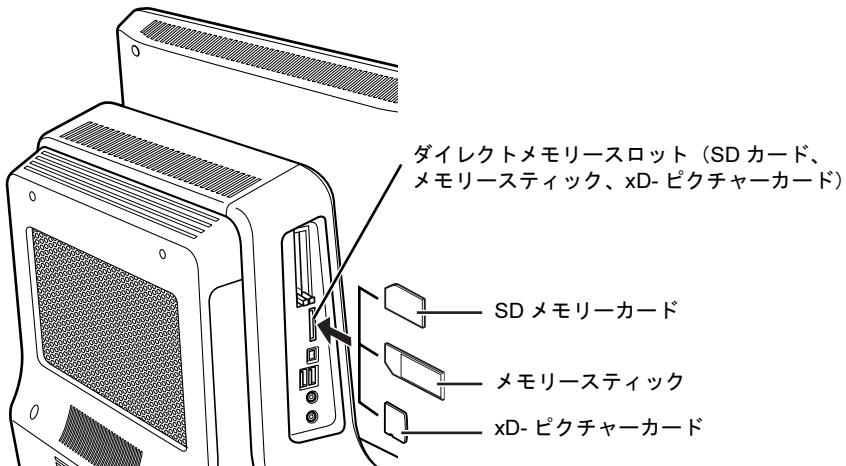
メモリーカードをセットする手順の動画を見ることができます

サポートページ（<http://azby.fmworld.net/support/>）で、メモリーカードをセットする手順の動画がご覧になります。

1 メモリーカードをダイレクトメモリースロット（SD カード、メモリースティック、xD-ピクチャーカード）にセットします。

製品名のある面をパソコン本体の背面側にして、奥までしっかりと差し込んでください。

■パソコン本体左側面



※製品名のある面をパソコン本体の背面側にして、まっすぐにセットします。

※ SD メモリーカード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードを同時に使用することはできません。

メモリーカードを取り出す

POINT

メモリーカードを取り出す手順の動画を見ることができます

サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) で、メモリーカードを取り出す手順の動画がご覧になります。

2

1 メモリーカードにアクセスしていないことを確認します。

ファイルのコピー、移動、削除などが終了していることを確認してください。

2 画面右下の通知領域にある (ハードウェアの安全な取り外し) をクリックします。

3 「nnn を安全に取り外します」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

POINT

メッセージが表示された場合

「デバイス'汎用ボリューム'を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、メモリーカードにアクセスしていないことを確認してから、もう一度手順2からやり直してください。

アイコンについて

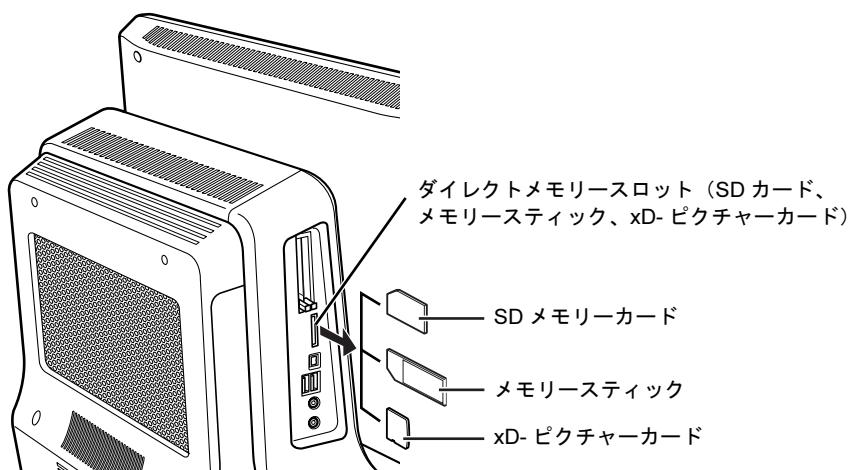
メモリーカードによっては、 (ハードウェアの安全な取り外し) が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

4 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。

飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

■パソコン本体左側面



※ 重要

メモリーカードを取り出すときの注意

- ・ダイレクトメモリースロット（SD カード、メモリースティック、xD-ピクチャーカード）からメモリーカードを取り出す場合は、メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりするおそれがあります。
また、メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- ・メモリーカードを取り出すときは、ダイレクトメモリースロット（SD カード、メモリースティック、xD-ピクチャーカード）を人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すとき、思わぬけがをするおそれがあります。



7 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを使う

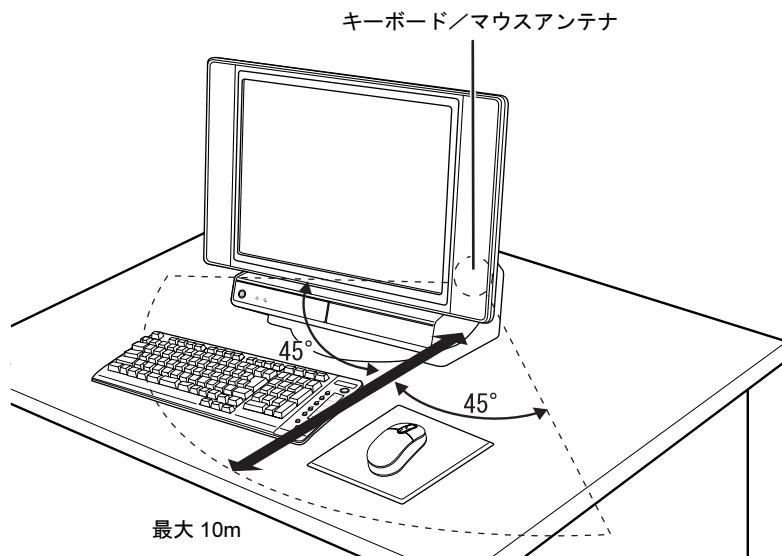
ここでは、ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの ID を設定する方法などを説明します。

2

使用に適した配置

ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。信号を受けるキーボード／マウスアンテナは、パソコン本体に内蔵されています。ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスは、次のような場所でお使いください。

- ・机の上など平らで安定した場所
- ・パソコン本体と同じくらいの高さで、操作に充分なスペースが取れる場所
- ・パソコン本体から最大 10m (3m 以内を推奨)、左右約 45 度の範囲



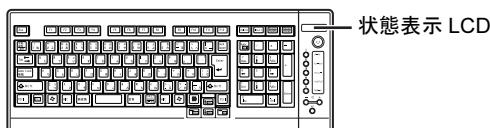
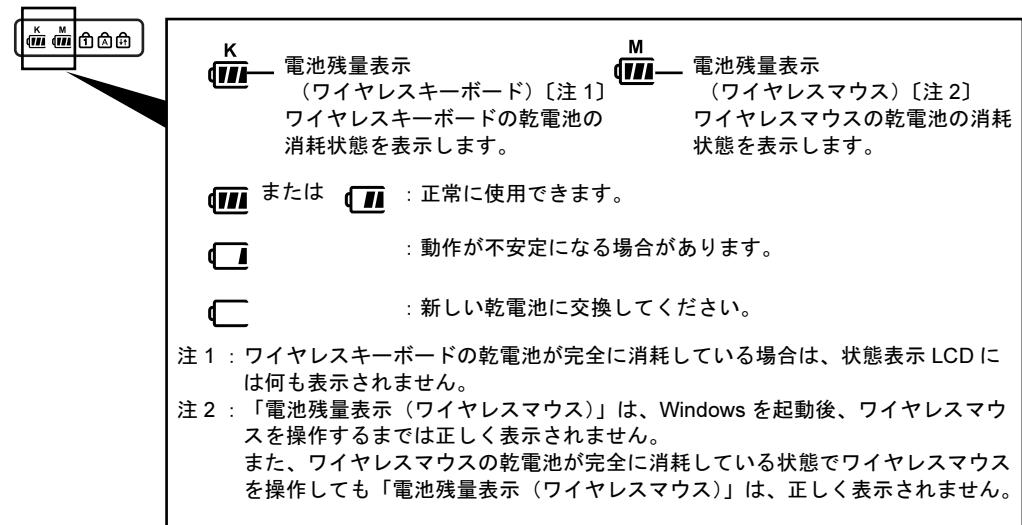
お使いになるときの注意事項

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスを使うときの注意事項について説明します。

- ・ 次のような環境では、周囲からの電波を受けて、ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスがうまく動作しないことがあります。設置場所を変えるなど、通信の妨げとなる原因を取り除いてください。
 - ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの送信部とキーボード／マウスアンテナとの距離が離れすぎている場合
 - パソコン本体とワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの間に、電気・電子機器や金属製のものを置いている場合
 - パソコン本体をスチール机やスチール棚のような金属製の台の上に載せている場合
 - 周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している場合
 - パソコン本体周辺に金属製の物（スチール製の机、金属部分がある机）がある場合
 - 周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している機器がある場合
(パソコンを複数台でお使いの場合や、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合、または無線局の近隣でお使いの場合など)
 - パソコン本体を電子レンジの近くに置いている場合
 - ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを使用したパソコンを近くで使用している場合
- ・ ワイヤレスマウスは電池の消耗を抑えるため、動かさない状態が約10秒続くと光学センサーを完全に消灯しスリープモードに入りますが、振動の検出によりスリープモードから復帰します。そのため、ワイヤレスマウスには振動を検出するためのモーションセンサーが内蔵されています。ワイヤレスマウスを振るとカラカラという音がしますが、これはモーションセンサーの振動検出機構の音であり、故障ではありません。そのままお使いください。
- ・ ワイヤレスキーボードは、電池の消耗を抑えるため、キーを押さない状態が約10分続くと、状態表示LCDに何も表示されなくなり、スリープモードに入ります。スリープモードから復帰する際、最初に押したキーが無効になることがあります、これは故障ではありません。もう一度、最初に押したキーを押してください。
- ・ **必ずアルカリ乾電池をお使いください。**
アルカリ乾電池以外の乾電池（マンガン乾電池、充電式乾電池など）はお使いにならないでください。充分な機能・性能で動作しない場合があったり、電池寿命が極端に短くなったりします。
- ・ **ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。**
すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。
- ・ **乾電池の寿命の目安は、毎日2時間の使用で、ワイヤレスキーボードは約6ヶ月、ワイヤレスマウスは約3ヶ月です。**
ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります。
乾電池の交換時には、市販の単3型アルカリ乾電池2本をご使用ください。
- ・ **パソコンを操作していないときは、なるべく動かさないようにしてください。**
パソコン本体の電源が入っていないなくても、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが動作していると乾電池が消費されます。また、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの上に物を載せたままにしないようにご注意ください。
- ・ **長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。**
ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用せずに放置していても、乾電池が消費されます。長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。



- ・ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの乾電池の消耗状態は、ワイヤレスキーボードの状態表示 LCD に表示されるインジケーターをご覧になり、消耗している場合はお早めに新しい乾電池に交換してください（表示は目安です）。なお、ワイヤレスキーボードの乾電池が完全に消耗している場合は、状態表示 LCD には何も表示されません。



乾電池を交換する

⚠ 注意



・電池ボックスに金属物を入れたり、落としたりしないでください。

故障の原因となることがあります。



・新しい乾電池と古い乾電池を混せて使用せずに、2本の新品乾電池と交換してください。

乾電池の液漏れや破裂等により、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



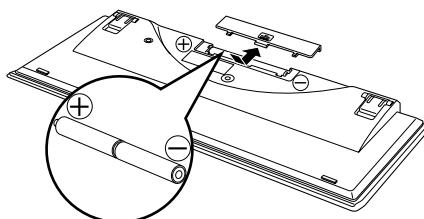
・使い切って寿命のなくなった乾電池はすぐに取り出してください。電池の液漏れなどの原因となることがあります。

1 ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウス（光学式）の電池ボックスのふたを開け、添付のアルカリ乾電池（4本セット）を2本ずつ入れます。

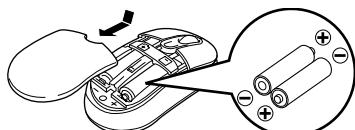
ワイヤレスキーボードは、裏返して電池ボックスのふたを開けます。

乾電池を入れるときには、キーボードのキーやマウスのボタンを押さないように注意してください。正常に動作しなくなる場合があります。

■ワイヤレスキーボード



■ワイヤレスマウス（光学式）



2 電池ボックスのふたを閉めます。

POINT

乾電池の使用推奨期限を確認してください

乾電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。



ID 設定をする

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの ID 設定方法について説明します。ID 設定は、ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスが使えなくなった場合や、周囲や近隣で複数台のパソコンを使っていて誤動作する場合に行ってください。通常は設定の必要はありません。

ID は、ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの電波の混信や誤動作を避けるため、対となっているパソコン本体との間でしかワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスが動作しないように設定する識別子です。

また、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは、それぞれ固有の ID を使用しているため、別々に設定が必要です。

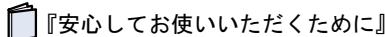
重要

設定をする前に確認してください

- ・次のマニュアルをご覧になり、パソコンを設置している環境を確認してください。

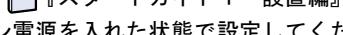
参照

- ▼パソコン本体の使用環境について



- 『安心してお使いいただくために』

- ▼設置場所について



- 『スタートガイド1 設置編』

- ・パソコン電源を入れた状態で設定してください。パソコン電源が入っていないときや、省電力機能が働いているときは設定することはできません。

乾電池の交換などで乾電池を抜いても ID 設定は保持されます

乾電池の交換などで乾電池を抜いても、ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの ID 設定値は保持されます。再設定する必要はありません。

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウス、両方の設定を行ってください

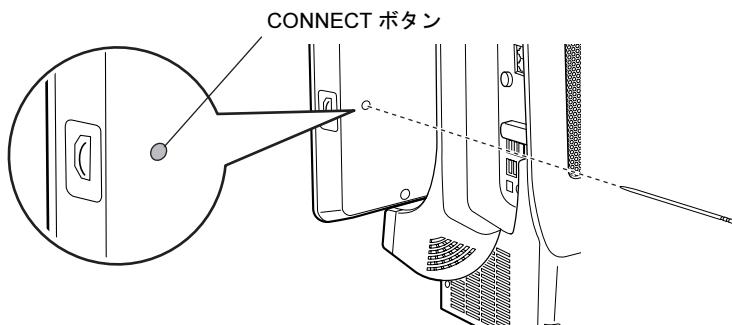
ID 設定を行う場合は、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウス両方の設定を行ってください。

ワイヤレスキーボードの ID 設定をする

1 パソコン本体の CONNECT ボタンを 1 回押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。CONNECT ボタンを押すと「カチッ」という感触があります。「カチッ」という感触がない場合は、もう一度 CONNECT ボタンを押してください。

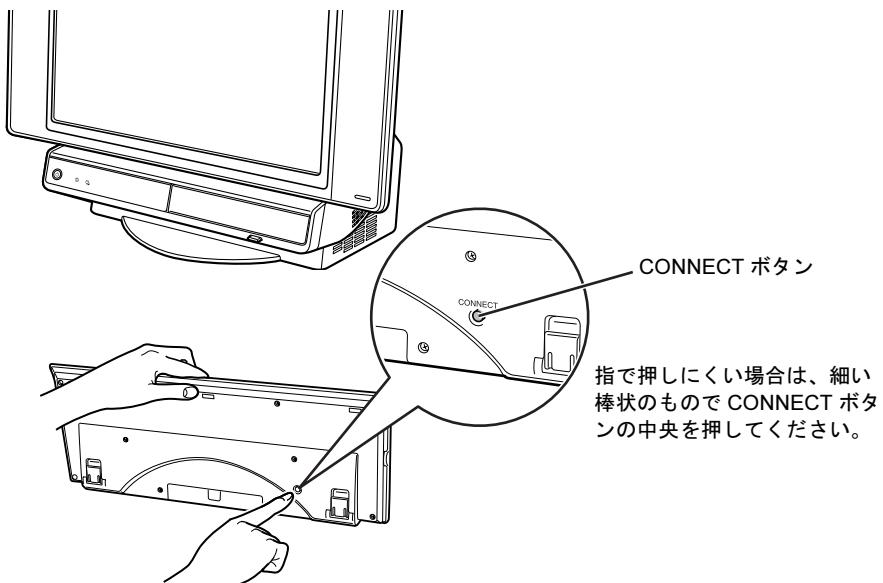
■パソコン本体背面



2 パソコン本体の CONNECT ボタンを押してから約 10 秒以内に、ワイヤレスキーボード裏面の CONNECT ボタンを指で1回押し、すぐに離します。

CONNECT ボタンを押す際は、キーボードの他のキーを押さないようにご注意ください。キーボード上面の状態表示 LCD が数回点滅した後、ID が自動的に設定されます。

■パソコン本体前面



(イラストは状況により異なります)

3 ワイヤレスキーボードを操作します。

ワイヤレスキーボードの などを押して正常に動作すれば設定完了です。キーボードが正常に動作しない場合は、一度乾電池を出し入れし、手順 1 からもう一度設定を行ってください。

続いて、ワイヤレスマウスの ID 設定を行いましょう。

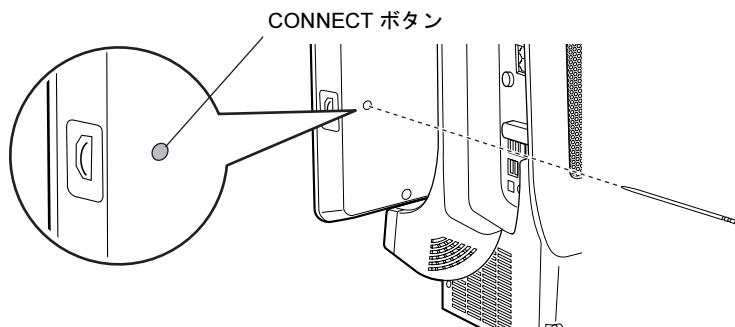


ワイヤレスマウスの ID 設定をする

1 パソコン本体の CONNECT ボタンを 1 回押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。CONNECT ボタンを押すと「カチッ」という感触があります。「カチッ」という感触がない場合は、もう一度 CONNECT ボタンを押してください。

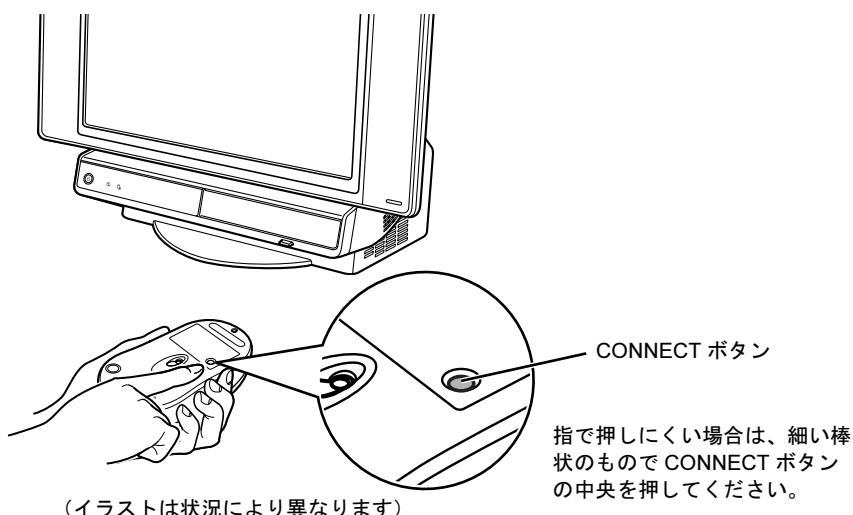
■パソコン本体背面



2 パソコン本体の CONNECT ボタンを押してから約 10 秒以内に、ワイヤレスマウス裏面の CONNECT ボタンを指で 1 回押し、すぐに離します。

CONNECT ボタンを押す際は、マウスの他のボタンを押さないようにご注意ください。光学式センサーの赤い光が数回点滅した後、ID が自動的に設定されます。

■パソコン本体前面



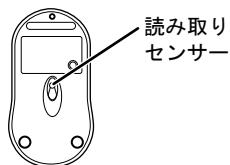
3 ワイヤレスマウスを操作します。

マウスを動かし、正常にマウスポインタが動けば設定完了です。正常に動作しない場合は、一度乾電池を出し入れし、手順 1 からもう一度設定を行ってください。

光学式マウスについて

マウスのしくみ

光学式マウスには、裏面に光学式読み取りセンサーが付いています。マウスを机の上などですべらせると、マウス裏面から出された赤い光の陰影を光学式センサーで検知し、画面上のマウスポインタが動くようになっています。



光学式マウスをお使いになる上での注意事項

光学式マウスは、机の上だけでなく、紙の上などでもお使いになることができますが、次のようなものの表面では正しく動作しない場合があります。

- ・鏡やガラスなど、反射しやすいもの
- ・光沢があるもの
- ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
- ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

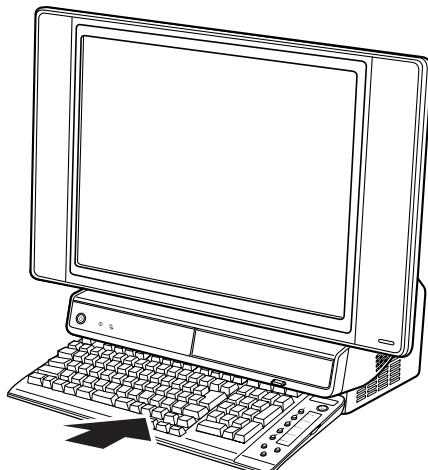
光学式センサーは机などと接触せずにマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドなどの必要はありませんが、マウス本体は机などと接触しているため、傷が付きやすい机やテーブルの上では、マウスパッドなどをお使いになることをお勧めします。

マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。光学式マウス対応のマウスパッドも市販されています。

ワイヤレスキーボードの収納について

このパソコンは、パソコン本体の下にワイヤレスキーボードを半分収納することができます。

ワイヤレスキーボード底面にあるチルトフットを倒してから収納してください。



8 LAN (有線 LAN) 機能を使う

2

LAN (有線 LAN) 機能を使うための、LAN コネクタについて説明します。
ここでは、主にインターネットに接続する場合を例に説明します。

このパソコンの LAN 機能

このパソコンでは、次のものが標準で準備されています。

- ・ LAN コネクタ (LAN ケーブル用)
100BASE-TX/10BASE-T 準拠

インターネットを使うときの接続例

次のイラストは、パソコンとブロードバンドモデムを LAN ケーブルで接続している一例です。ネットワークの形態によって使用する機器が異なりますので、ネットワークに合ったものをご購入ください。



ネットワークの種類やしくみについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』 > 「390010」で検索
→ 「ネットワークの種類やしくみ」

LAN (有線 LAN) をお使いになる場合

LAN (有線 LAN) をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。

ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。

必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものが必要です。

- ・ブロードバンドモデム
ADSL モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダにより異なります。
- ・ルーター
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンタなど）に届けるための機器。
一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。
複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに内蔵されている場合もあります。
- ・ハブ
ネットワーク上でケーブルを中継するための機器。
複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに内蔵されている場合もあります。
- ・LAN ケーブル（ストレートタイプ）
お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

LAN を使うための設定

LAN をお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。

接続、設定の方法については、次のマニュアルでも説明しています。

参照

 『画面で見るマニュアル』 ➞  「000100」で検索
→ 「LAN を使う」



3

第3章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の使用上の注意やメモリの増やし方などを説明しています。目的に合わせてお読みください。

1 周辺機器をお使いになる場合	48
2 本体カバーを取り外す／取り付ける	51
3 メモリの増設／交換	54

1 周辺機器をお使いになる場合

ここでは、メモリなどの周辺機器をお使いになる場合に知っておいていただきたいことについて説明します。

⚠ 警告



- 周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。
- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器とは？

メモリ、プリンタ、デジタルカメラ、スキャナなどの装置のことです。パソコン本体内部に取り付けたり、パソコンの各コネクタに接続したりします。

周辺機器をパソコン本体内部に取り付ける場合は、パソコン本体カバーを取り外す必要があります。パソコン本体カバーの取り外し方と取り付け方については、「本体カバーを取り外す／取り付ける」(☞P.51)をご覧ください。

周辺機器を取り付けると

メモリを取り付けてパソコンの処理能力を上げたり、プリンタを接続して印刷したりなど、パソコンでできることがさらに広がります。

また、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで、Eメールに添付したりできます。

周辺機器を取り付けるには

周辺機器の取り付け方について、本マニュアル内では、「メモリの増設／交換」(☞P.54)、「ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを使う」(☞P.37)を記載しています。また、画面で見るマニュアルでも紹介しています。

お使いになる周辺機器のマニュアルとあわせてご覧ください。

参照



『画面で見るマニュアル』

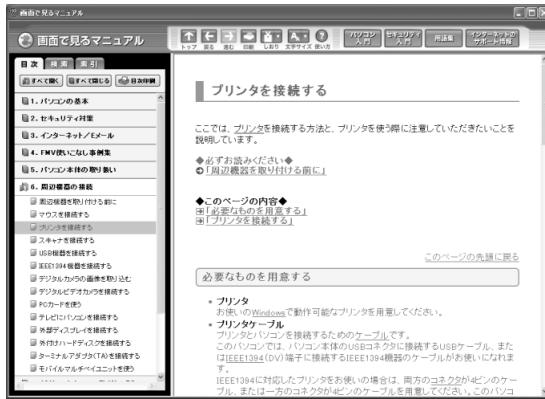
→「5. パソコン本体の取り扱い」または「6. 周辺機器の接続」



「画面で見るマニュアル」で調べる

1 表示される画面の中から取り付けたい周辺機器をクリックします。

例えば、プリンタを接続する場合は、「6. 周辺機器の接続」→「プリンタを接続する」をクリックします。



POINT

手順の中に「動画を見る」というボタンがあるとき

ボタンをクリックすると、インターネットに接続して手順の動画をご覧いただけます。このとき、「FMV ユーザー登録で発行された「ユーザー登録番号」と「パスワード」が必要です。ユーザー登録については、『サポート & サービスのご案内』をご覧ください。

画面で見るマニュアルの使い方については、次のマニュアルをご覧ください。

参照



周辺機器の取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

・周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかつたり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

純正品が用意されていない周辺機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。

・周辺機器に添付のドライバがお使いの Windows に対応しているか確認してください

お使いになる周辺機器のドライバがお使いの Windows に対応していないと、その周辺機器はお使いになられません。必ずお使いの Windows に対応したものをご用意ください。

・ドライバなどがフロッピーディスクで添付されている場合

周辺機器によっては、添付のドライバなどがフロッピーディスクで提供されているものがあります。その場合は、オプションの FDD ユニット (USB) (FMFD-51S または FMFD-51SZ) をご購入になり、接続した上でドライバをインストールしてください。

・ACPIに対応した周辺機器をお使いください

このパソコンは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）によって電源制御を行っていますので、周辺機器もACPIに対応している必要があります。

ACPIに対応していない周辺機器をお使いの場合は、増設した機器やパソコンが正常に動作しなくなることがあります。周辺機器がACPIに対応しているかどうかは、周辺機器メーカーにお問い合わせください。

また、このパソコンのACPIモードは、スタンバイ（ACPI S3）に設定されています。

・一度に取り付ける周辺機器は1つだけに

一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行ってから、別の周辺機器を取り付けてください。

・パソコンおよび接続されている機器の電源を切ってください

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。パソコン本体の電源の切り方については、「電源を切る」（ P.21）をご覧ください。

・電源を切った直後は作業をしないでください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後10分ほど待ってから作業を始めてください。

・電源ユニットは分解しないでください

電源ユニットは、パソコン本体内部の背面側にある箱形の部品です。

・内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください

傷付けたり、加工したりしないでください。また、ねじったり、極端に曲げたりしないでください。

・静電気に注意してください

内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。

・基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください

金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。

・周辺機器の電源について

周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

・ドライバーを用意してください

パソコン本体の本体カバーなどの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。



2 本体力バーを取り外す／取り付ける

ここでは、メモリなどを取り付ける場合に必要な本体力バーの取り外し方と取り付け方について説明します。

⚠ 警告



- ・本体力バーをあける場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、しばらく経ってから本体力バーを開けてください。また、電話回線からモジュラーケーブルが接続されている場合、モジュラーケーブルも取り外してください。
電話回線から着信があった場合、または落雷が起きた場合に感電の原因となります。
- ・取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

3

⚠ 注意



- ・本体力バーの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- ・基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

☞ 重要

周辺機器の取り付け手順を印刷しておいてください

操作の途中で電源を切る必要のある周辺機器については、「画面で見るマニュアル」の該当ページの先頭に「このページは印刷しておくと便利です」と記載されています。操作を始める前に、「画面で見るマニュアル」の該当ページをプリンタで印刷してご覧ください。

メモリについては、「メモリの増設／交換」(☞ P.54) をご覧ください。

本体カバーを取り外す

1 パソコン本体と接続されている周辺機器の電源を切ります。

パソコン本体の電源の切り方については、「電源を切る」(☞P.21)をご覧ください。

2 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後10分ほど待ってください。

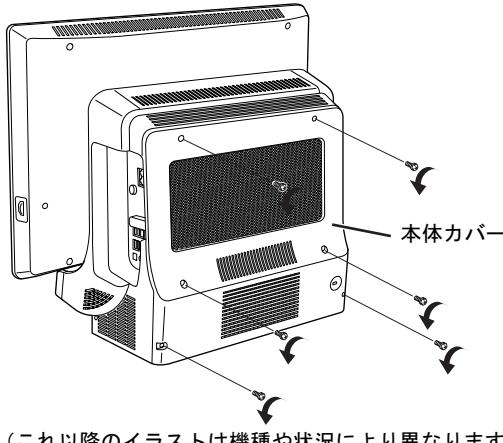
重要

電源プラグはコンセントから抜いてください

パソコン本体の電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。必ず電源プラグをコンセントから抜いたことを確認してください。

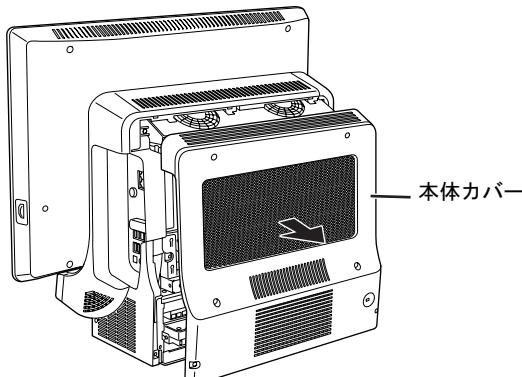
3 パソコン本体に接続されている機器をすべて取り外します。

4 本体カバーのネジ（6ヶ所）をプラスのドライバーで回して外します。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

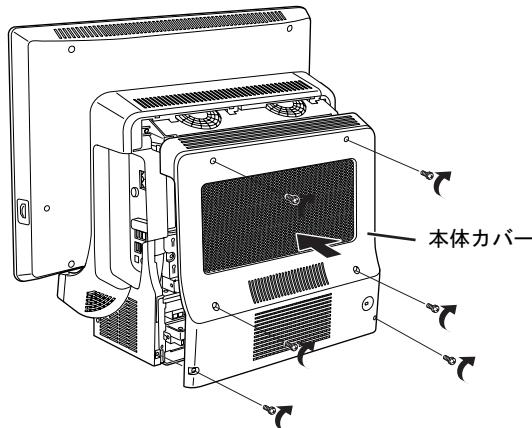
5 本体カバーを取り外します。



本体力バーを取り付ける

- 1 本体力バーを取り付け、ネジ（6ヶ所）をプラスのドライバーで回して固定します。

ネジは固く締めすぎないようにしてください。



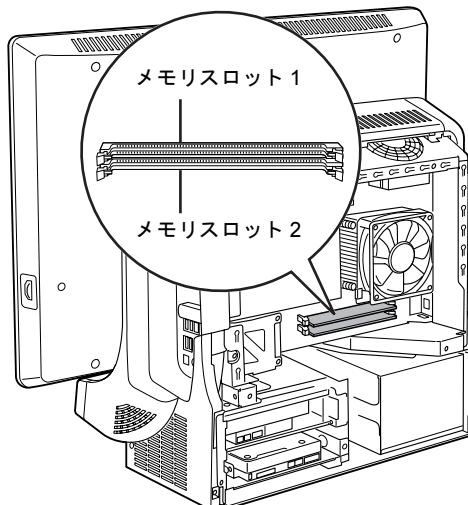
- 2 パソコン本体に接続されていた機器をすべて取り付けます。
- 3 パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。

3 メモリの増設／交換

パソコンに取り付けられるメモリを増やすことによって、パソコンの処理能力などを上げることができます。ここでは、メモリを増やす方法について説明します。

メモリの取り付け場所

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。

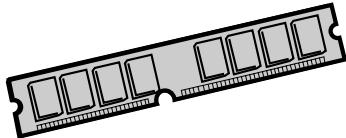


(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)



取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次の種類です。



- ・種類:DDR2(ディーディーアール2)SDRAM(エスディーラム)DIMM(ディム)(SPD付き)
- ・メモリバスクロック:PC2-4200(533MHz)
- ・ピン数:240ピン
- ・容量:256MB、512MB、1GB
- ・ECC:なし

3

重要

メモリバスクロックについて

このパソコンに取り付けるメモリは、PC2-4200対応(DDR2)またはPC2-4300対応(DDR2)のものをお使いください。

POINT

SPD(エスピーディー)

Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。

必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のDIMMは、SPD付きです。

ECC(イーシーシー)

Error Correcting Codeの略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

このパソコンでは使いません。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。

次の表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1	メモリスロット2
512MB(ご購入時)	256MB	256MB
1GB	512MB〔注1〕〔注2〕	512MB〔注1〕〔注2〕
2GB(最大)	1GB〔注1〕〔注2〕	1GB〔注1〕〔注2〕

注1: あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。

注2: デュアルチャネルで動作させるには、弊社純正品の同じ容量のメモリを2枚1組で取り付けてください。

メモリの取り扱い上の注意

⚠ 警告



- メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

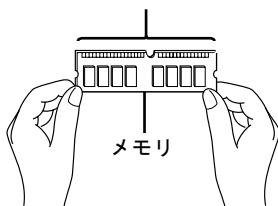


- 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

メモリを取り付けるときの注意

- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。
- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- メモリは下図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



- パソコン本体の電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。必ず電源プラグをコンセントから抜いたことを確認してください。



メモリを増やす

ここでは、メモリを増やす方法を説明します。

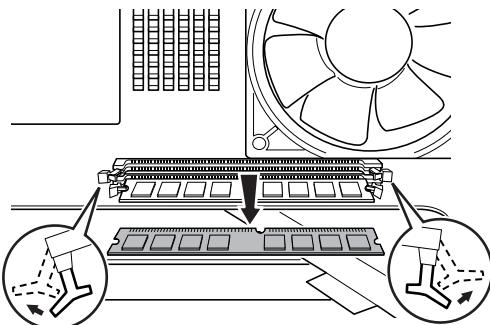
POINT

メモリの取り付け手順の動画を見ることができます

サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) で、メモリの取り付け手順の動画がご覧になります。

3

- 1 「本体カバーを取り外す」(☞P.52) をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 メモリの取り付け場所とメモリ容量の組み合わせを確認します。
メモリの取り付け場所については、「メモリの取り付け場所」(☞P.54) をご覧ください。
メモリの容量と組み合わせについては、「メモリの組み合わせ表」(☞P.55) をご覧ください。
- 3 メモリスロット1の両側のレバーを外側へ開いて、メモリを引き抜きます。



(これ以降のイラストは状況により異なります)

重要

メモリを取り外すときの注意

- メモリスロットの両側のレバーを外側に開くときに、指をはさまないようにご注意ください。
- レバーを勢いよく外側へ開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

- 4 手順3と同様に、メモリスロット2のメモリを引き抜きます。

次のページへ

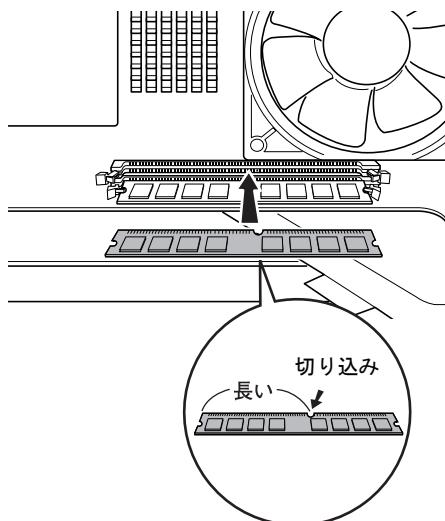
5 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

メモリスロット2、メモリスロット1の順に差し込みます。

端子に切り込みが入っている部分から端までの距離が長いほうを左側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

メモリを取り付けるときは

- ・端子やICに触れないようにして、両手でメモリのふちを持って取り付けてください。
- ・メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ・メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。無理にメモリを取り付けようすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

メモリの向きについて

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください。無理に差し込むと故障の原因となります。

6 「本体力バーを取り付ける」(…▶P.53)をご覧になり、本体力バーを取り付けます。

続いて、メモリが正しく取り付けられたかメモリ容量を確認しましょう (…▶P.59)。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れる」(☞P.19)をご覧ください。

POINT

画面に何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。

その場合は、パソコン電源ボタンを4秒以上押し続けてパソコンの電源を切り、電源プラグを抜いた後、メモリを取り付け直してください。

2 Windowsが起動したら、「スタート」ボタンをクリックします。

3 「マイコンピュータ」を右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 丸で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



(画面は機種や状況により異なります)

画面は、512MBのメモリ2枚に交換して、1GBに増やした例です。

このパソコンではメモリの一部をグラフィック用メモリとして使用するため、実際のメモリ容量より少なく表示されます。

SCSIカードの増設などお使いのシステム構成によっては、さらに1～2MB少なく表示される場合があります。

次のページへ

5 「OK」をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- ・増やしたメモリがこのパソコンで使える種類のものか
「取り付けられるメモリ」(••▶P.55)
- ・メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
「メモリを増やす」(••▶P.57)
- ・正しいスロットに取り付けられているか
「メモリの取り付け場所」(••▶P.54)
- ・メモリを正しく組み合わせているか
「メモリの組み合わせ表」(••▶P.55)



4

第4章 お手入れ

1 FMVのお手入れ 62

1 FMV のお手入れ

ここでは、FMV を快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明しています。

⚠ 警告



- お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

パソコン本体および添付品のお手入れ

◀ 重要

次のものは使わないでください

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使わないでください。

乾電池は取り出してください

マウスやキーボードのお手入れを行うときは、あらかじめ乾電池を取り出してください。

パソコン本体の通風孔、およびパソコン本体内部にはこりがたまらないよう、定期的に清掃してください。

パソコン本体の通風孔やパソコン本体内部は掃除機を使ってほこりを吸い取ってください。
パソコン本体やマウス、キーボードなどの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。
中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。
また拭き取るときは、パソコン本体や液晶ディスプレイ、マウス、キーボード、スピーカーに水が入らないよう充分注意してください。

キーボードのキーとキーの間のほこりなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。



液晶ディスプレイのお手入れ

重要

次のものは使わないでください

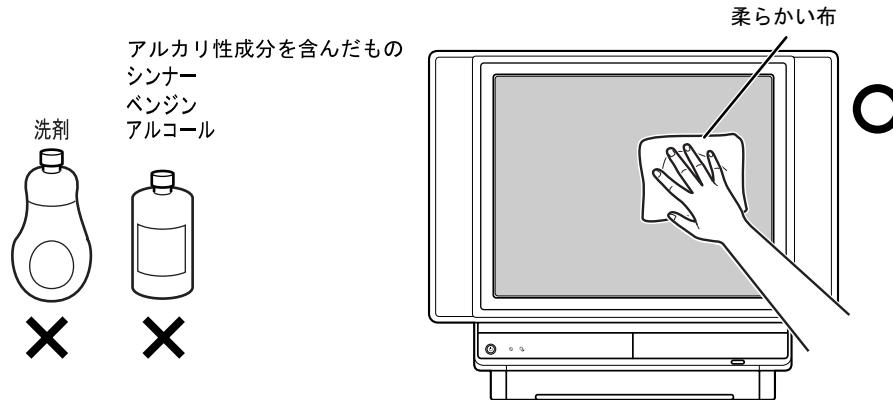
市販クリーナーは以下の成分を含んだものがあり、画面の表面コーティングやカバーを傷つける場合がありますので、ご使用を避けてください。

- ・アルカリ性成分を含んだもの
- ・界面活性剤を含んだもの
- ・アルコール成分を含んだもの
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
- ・研磨材を含んだもの
- ・化学ぞうきん

など

画面のお手入れ

画面は、ガーゼなどの柔らかい布で拭いてください。



パソコン本体内部や通風孔のお手入れ

パソコン本体の通風孔や内部にほこりがたまると、故障の原因となります。定期的に清掃してください。

必要なものを用意する

- ・掃除機
- ・綿手袋

清掃方法

※ 重要

電源プラグはコンセントから抜いてください

感電のおそれがありますので、清掃前には必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、コンセントを抜いてください。

充分に換気してください

清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。

パソコン本体内部の部品には触れないでください

故障の原因となりますので、CPU ファンの羽根およびその他のパソコン本体内部の部品には極力手を触れないでください。

また、掃除機の吸引口をパソコン本体内部の部品に当てないでください。

次のことにご注意ください

- ・洗剤は使用しないでください。
- ・清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。

パソコン本体内部は静電気に対して弱い部品で構成されています

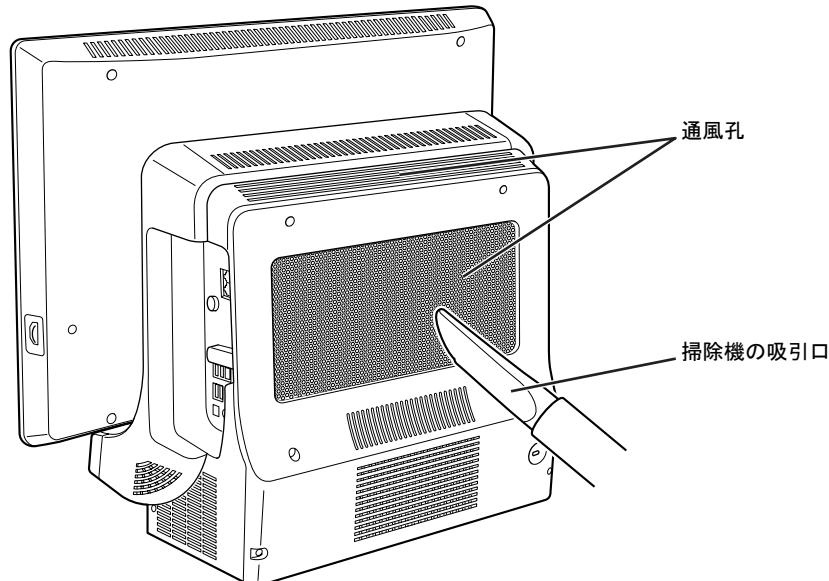
パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまつた静電気によって破壊される場合があります。

パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。



■通風孔の清掃方法

- 1 掃除機の吸引口にノズルを取り付け、通風孔のほこりを直接吸い取ります。



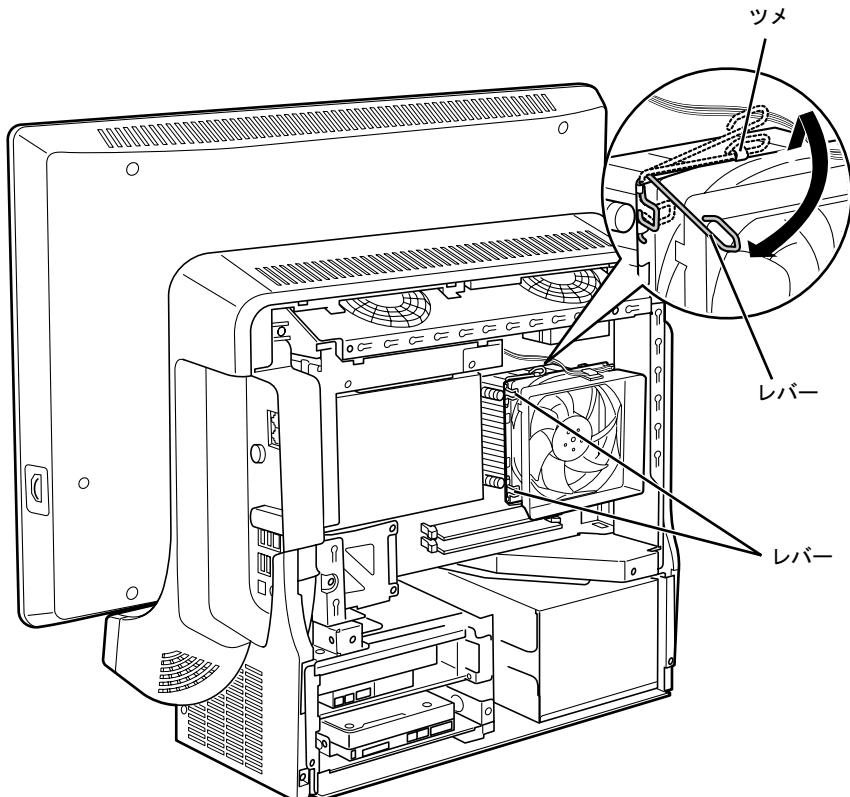
(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

■パソコン本体内部の清掃方法

1 「本体カバーを取り外す」(☞P.52)をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 CPU ファンの上部と下部にあるレバー（2ヶ所）を外します。

レバーを押してツメから外し、手前に起こします。その際、CPU ファンを片手でしっかりと支えてください。



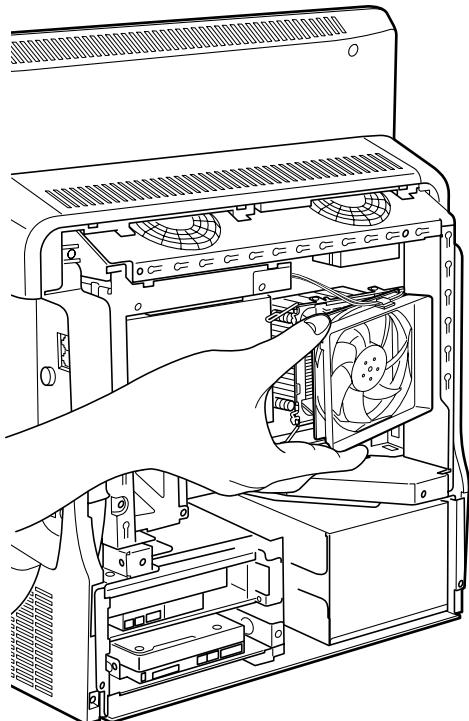
重要

レバーを外すときの注意

- ・レバーは1つずつ外してください。
- ・レバーは外側（ヒートシンクから遠い位置）を持ってください。内側を持つと、ヒートシンクに指があたったり、けがをするおそれがあります。

3 CPU ファンの外枠フレームを持って、CPU ファンをヒートシンクから取り外します。

CPU ファンを持つ際は、CPU ファンの羽に触れないようしてください。

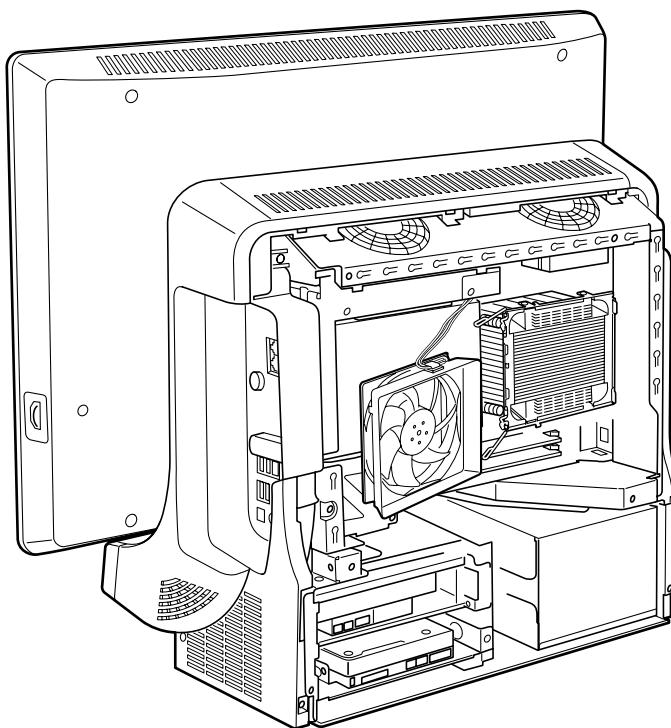


4

次のページへ

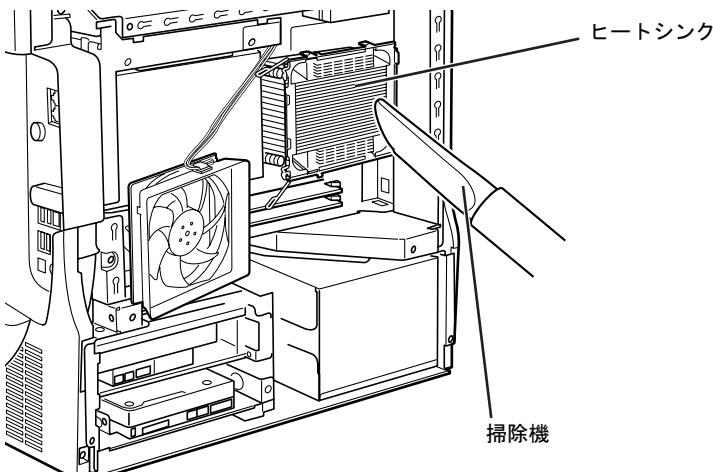
4 取り外した CPU ファンを、ゆっくり降ろします。

CPU ファンのケーブルが抜けないように注意してください。



5 掃除機でヒートシンク上のほこりを直接吸い取ります。

ヒートシンクに掃除機の吸引口を強くぶつけたり、綿棒や爪楊枝を使ってほこりを取りないでください。ヒートシンクが変形する可能性があります。



続いて、電源ユニットやヒートシンク周辺のほこりを掃除機で吸い取ります。



重要

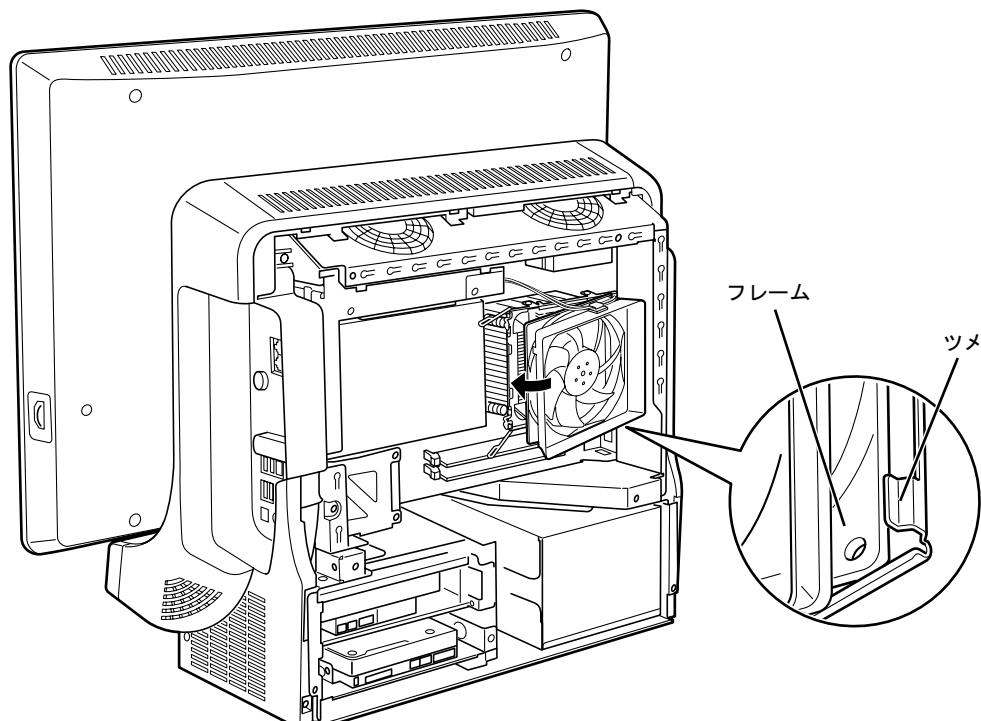
周辺の電気部品に触れないでください

故障の原因となりますので、ヒートシンク周辺の電気部品には触れないようご注意ください。

6 CPU ファンを、ヒートシンクの上に置きます。

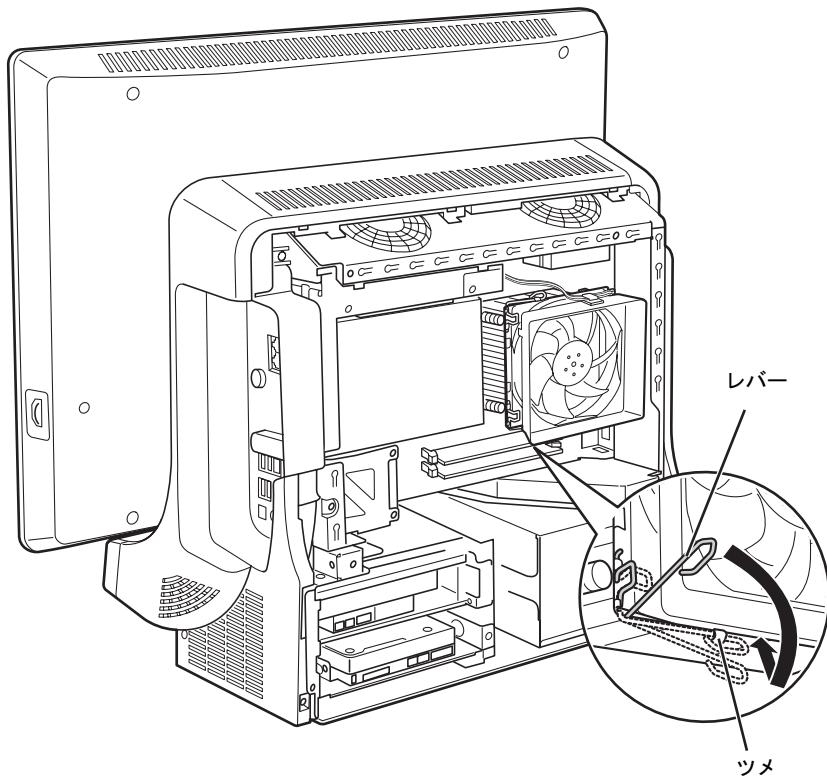
ラベルがない面を上側に向け、ヒートシンクのツメ（2ヶ所）に CPU ファンのフレームを差し込んでから取り付けてください。

なお、CPU ファンを取り付ける際にケーブルをはさんでいないことを確認してください。



7 CPU ファンの上部と下部にあるレバーを下に倒し、CPU ファンを固定します。

レバーで CPU ファンをしっかりと押さえてから、レバーをツメに掛けます。



重要

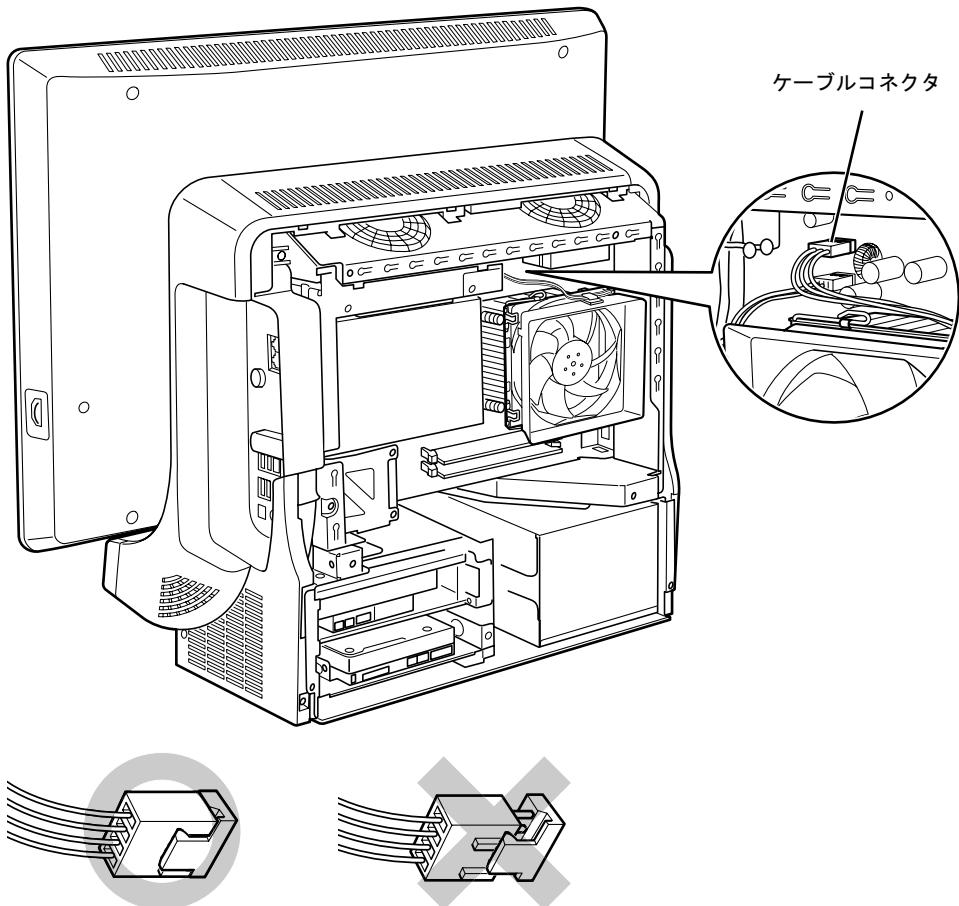
レバーで固定するときの注意

- ・ CPU ファンをしっかりと押さえた後、1 つずつツメにかけてください。
- ・ レバーは外側（ヒートシンクから遠い位置）を持ってください。内側を持つとヒートシンクに指があたり、けがをするおそれがあります。

8 CPU ファンのケーブルコネクタが外れていないことを確認します。

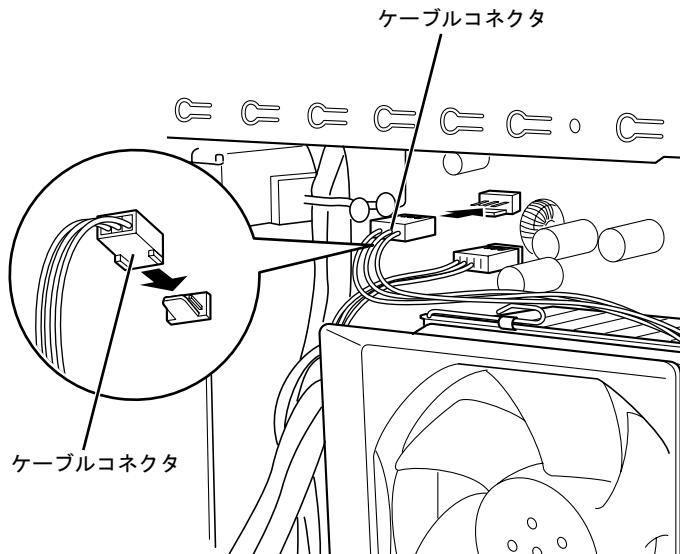
少しでも外れている場合は、しっかり取り付けます。手順 9 へ進んでください。

外れていない場合は手順 10 へ進んでください。



次のページへ

9 CPU ファンのケーブルコネクタの向きに注意して、まっすぐ奥まで挿入します。



10 「本体カバーを取り付ける」(☞P.53) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

11 パソコン本体の電源を入れ、Windows が起動することを確認してください。

「電源を入れる」(☞P.19) をご覧ください。

 **POINT**

Windows が起動せずにメッセージが表示されたときは

CPU ファンのケーブルコネクタが外れていたり半抜けになっていると、パソコンの電源を入れたとき画面にメッセージが表示されることがあります。

その場合は、パソコンの電源ボタンを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切り、本体カバーを取り外してください。その後、CPU ファンやケーブルコネクタがしっかりと固定されていることを確認してください。それでもメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

5

第5章 取り扱い上の注意

1 パソコンを移動する場合の注意	74
2 添付コアの取り付け方	75

1 パソコンを移動する場合の注意

△ 注意



- ・本製品を移動するときは、必ず2人以上で行ってください。
けがの原因となることがあります。

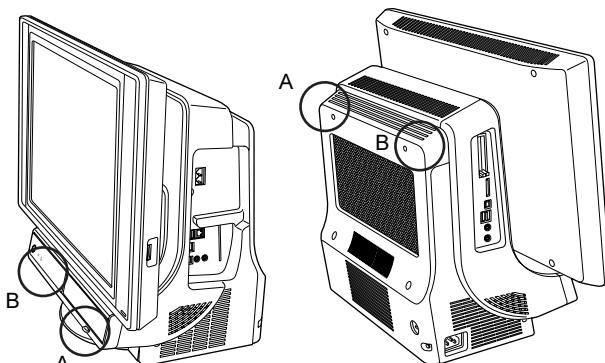


- ・パソコンを移動したり、液晶ディスプレイの角度を傾けたりするときなどに、液晶ディスプレイとパソコン本体の間に指などを挟まないようご注意ください。
けがの原因となることがあります。

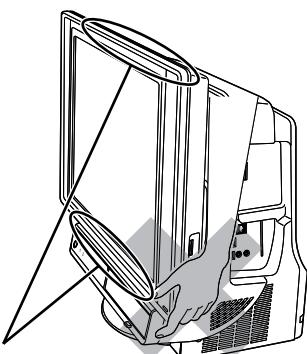
パソコンを移動する場合の注意

このパソコンは重量があります。移動する場合は、次の点に注意してください。

- ・必ず2人以上で持ってください。
- ・パソコン本体の前面右下部分と背面左上部分の2ヶ所（下図のAの部分）、
パソコン本体の前面左下部分と背面右上部分の2ヶ所（下図のBの部分）を、
両側から両手でつかんで持ち上げてください。



- ・液晶ディスプレイ部分、および本体下部の金属部分は、絶対に持たないでください。



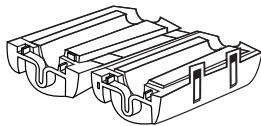
- ・液晶ディスプレイとパソコン本体の間に指などをはさまないようご注意ください。

2 添付コアの取り付け方

このパソコンでは、お使いになる機種や接続するケーブルによって、コアの取り付けが必要な場合があります。次の説明をよくお読みになり、正しくコアを取り付けてください。

添付されているコアの種類

コアが1個添付されています。



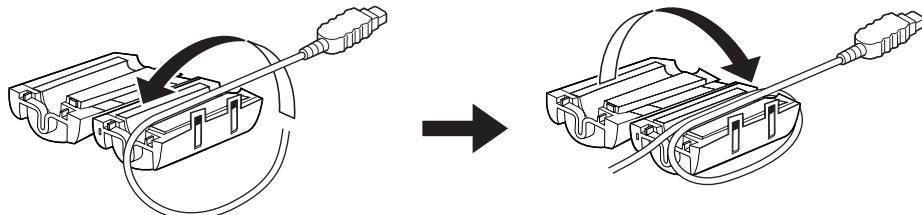
大：1個

IEEE1394 (DV) 端子にプリンタなどの IEEE1394 (DV) ケーブルを接続する場合に取り付けます。

コアの取り付け方

ケーブルをコアに1回巻きつけ、端子の近くでコアを閉じます。

コアを閉じるときは、コアでケーブルをはさみ込まないように注意してください。



Memo

6

第6章 仕様一覧

1 パソコン本体の仕様	78
2 その他の仕様	82

1 パソコン本体の仕様

製品名称		FMV-DESKPOWER LX60T
CPU		インテル® Celeron® D プロセッサー 346 3.06GHz
キャッシュメモリ		1 次 : 12K μ Ops 実行トレース + 16KB データ、2 次 : 256KB (CPU 内蔵)
チップセット		インテル® 915GV チップセット
システム・バス		533MHz
メインメモリ ¹		標準 512MB (PC2-4200 デュアルチャネル DDR2 SDRAM DIMM) ECC なし ² 最大 2GB ³
メモリスロット		× 2 (空きスロットなし)
表示機能	グラフィック アクセラレータ	チップセットに内蔵
	ビデオメモリ	最大 128MB ⁴ (メインメモリと共用)
	液晶ディスプレイ ⁵	19 型デジタル液晶
	解像度／発色数	最大 1280 × 1024 ドット / 最大 1619 万色 ⁶
フロッピーディスク ドライブ ⁷		FDD ユニット (USB) (別売)
ハードディスク ドライブ ⁸		200GB (シリアル ATA/150) ⁹
CD/DVD ドライブ		スーパーマルチ ドライブ ¹⁰
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
通信機能	モデム	データ : 最大 56kbps (V.90 規格準拠) ¹¹ / FAX : 最大 14.4kbps
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2 スロットまたは Type III × 1 スロット (CardBus 対応)
	SD カード / メモリー スティック /xD- ピクチャーカード ¹²	× 1 スロット
	USB ¹³	USB2.0 準拠 × 6 (左側面 × 2、右側面 × 4)
	IEEE1394 (DV)	4 ピン × 1 (S400)
	モデム	RJ-11 × 2 (LINE × 1、PHONE × 1)
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	マイク : ϕ 3.5mm ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10k Ω 以上 (DC) 2k Ω 以上)、ヘッドホン : ϕ 3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32 Ω)、光デジタルオーディオ出力 : 角形 : 光プラグ、ラインイン : ϕ 3.5mm ステレオ・ミニジャック、ラインアウト : ϕ 3.5mm ステレオ・ミニジャック
電源 / 周波数		AC100V 50/60Hz
消費電力 ¹⁴	電源 OFF 時 ¹⁵	2W 以下
	動作時	通常約 115W 最大 204W スタンバイ時約 3W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 ¹⁶		P 区分 0.00024 (AAA) ¹⁷ j 区分 0.0035 ¹⁸
外形寸法		W 554 × D270 × H477mm (突起部含まず)
質量		約 17.9kg

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注記については、「仕様一覧の注記について」(▶▶P.80) をご覧ください。



製品名称	FMV-DESKPOWER LX60T
盗難防止用ロック取り付け穴	あり
温湿度条件	温度 10 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 90%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS	Windows XP Home Edition ^{注19} (DirectX:9.0c 対応)
サポート OS	Windows XP Home Edition ^{注20} 、Windows XP Professional ^{注20}

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注記については、「仕様一覧の注記について」(☞▶P.80)をご覧ください。

仕様一覧の注記について

- 注 1 : ビデオメモリと共有しているため、「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」の「システム」では、搭載メモリサイズより少なく表示されます。
ビデオメモリの使用量は、Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状況によって、自動的に変化します。
- 注 2 : メモリについては、533MHz の周波数で動作します。
- 注 3 : メインメモリの最大容量は拡張 RAM モジュール 1GB を 2 枚搭載した場合です。また、デュアルチャネルで動作させるには当社指定の純正オプションが必要です。
このパソコンに取り付けるメモリは、PC2-4200 対応 (DDR2) または PC2-4300 対応 (DDR2) のものをお使いください。
- 注 4 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) を使用しているため、パソコンの動作状況により、メモリ容量が自動的に変化します。
- 注 5 : 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
長時間同じ表示を続けると残像となることがあります、故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。
この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
表示する条件によっては、むらおよび微少な斑点が目立つことがあります、故障ではありません。
- 注 6 : グラフィックアクセラレータの出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表現されます。
- 注 7 : このパソコンにはフロッピーディスクドライブは内蔵されていません。オプション品の FDD ユニット (USB) (FMFD-51S または FMFD-51SZ) をお買い求めの上、お使いください。
なお、FDD ユニットの接続と取り外しは、必ず電源を切った状態で行ってください。
FDD ユニット (USB) (FMFD-51S または FMFD-51SZ) を接続すると、デスクトップの  (マイコンピュータ) 内にドライブが表示され、フロッピーディスクドライブとして使うことができます。
FDD ユニット (USB) (FMFD-51S または FMFD-51SZ) では、次のフロッピーディスクは使用できません。
・OASYS 文書フロッピイ
・640KB でフォーマットしたフロッピーディスク
・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S または FMFD-51SZ) では、次のフロッピーディスクは、データの読み書きはできませんが、フォーマットはできません。
・1.25MB でフォーマットしたフロッピーディスク
・1.23MB でフォーマットしたフロッピーディスク
・720KB でフォーマットしたフロッピーディスク
- 注 8 : このマニュアルに記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。
Windows 上で 1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で表示される容量は、このマニュアルに記載のディスク容量より少なくなります。
- 注 9 : C ドライブは「マイリカバリ」用に 300MB の領域が占有されています。
そのため、「マイコンピュータ」のハードディスクの総容量は、マニュアルの記載よりも約 300MB 少なく表示されます。
なお、ハードディスクの区画の数や種別を変更したり、外付けドライブを接続した状態では、「マイリカバリ」が正常に動作しなくなります。ご了承ください。
- 注 10 : ドライブの主な仕様は次の通りです。
スーパーマルチドライブ

CD/DVD	読み出速度 (最大)	書き速度 (最大)	書換速度 (最大)
CD-ROM	40 倍速	—	—
CD-R	40 倍速	40 倍速	—
CD-RW	24 倍速	10 倍速	10 倍速
DVD-ROM	16 倍速	—	—
DVD-R	10 倍速	16 倍速	—
DVD-R DL	8 倍速	4 倍速	—
DVD-RAM	12 倍速 (4.7/9.4GB)	12 倍速 (4.7/9.4GB)	—
DVD-RW	8 倍速	6 倍速	6 倍速
DVD+R	10 倍速	16 倍速	—
DVD+R DL	8 倍速 (8.5GB)	8 倍速 (8.5GB)	—
DVD+RW	8 倍速	8 倍速	8 倍速

- 注 11 : 56000bps は、V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。
詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。
『画面で見るマニュアル』>『000830』で検索
→「内蔵モデム」
・本モデムは、電気通信事業法による技術基準適合認定を取得しています。
回線認定番号 : A04-0001005
- 注 12 : 「SD メモリーカード」、「メモリースティック」、「xD- ピクチャーカード」の同時使用はできません。
・「マジックゲート」機能が必要なデータの記録／再生はできません。
・マルチメディアカード (MMC) には対応していません。
・SD メモリーカード、miniSD カードは、著作権保護機能 (CPRM) に対応しています。
このパソコンでは「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」というソフトウェアで SD-Audio 形式でファイルの読み書きを行うときに、SD メモリーカード、または miniSD カードの著作権保護機能 (CPRM) が有効になります。
「MOOCS PLAYER」や「SD-Jukebox」については次のページをご覧ください。
・「MOOCS PLAYER」(<http://moocs.com/>)
・「SD-Jukebox」(<http://panasonic.jp/support/software/sdjpb/index.html>)



画面で見る
マニュアル



添付の
冊子マニュアル



このマニュアルの巻頭でご案内しています。

- 注 13：すべての USB 対応周辺機器について動作するものではありません。
- 注 14：出荷時の構成による測定値です。
- 注 15：電源 OFF 時の消費電力を回避するには、パソコンの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 16：エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注 17：・2005 年度基準で表示しています。
・カッコ内のアルファベットは、「A は 100% 以上 200% 未満、AA は 200% 以上 500% 未満、AAA は 500% 以上」の省エネルギー基準達成率であることを示しています。
- 注 18：2007 年度基準で表示しています。
- 注 19：出荷時に、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載が適用されています。
- 注 20：Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載が適用されている必要があります。

2 その他の仕様

液晶ディスプレイ

表示方式	TFT
サイズ	19型
最大解像度	1280 × 1024 ドット
最大発色数	1619万色
画素ピッチ	0.294mm × 0.294mm

内蔵スピーカー

方式	トランソニックスピーカー
スピーカーユニット	口径：40（mm）×1個 インピーダンス 4.0Ω
定格入力	2W/ch
音圧レベル	77dB/W（m）
再生周波数	170Hz～20kHz



LAN 機能

LAN コントローラ	Realtek RTL8100C
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 2kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル ^{注1} (100Mbps : カテゴリ 5 以上、10Mbps : カテゴリ 3 以上)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数／セグメント	ハブユニット ^{注2} による

注 1 : ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータグレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注 2 : ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

ネットワークのスピードについて

LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

ワイヤレスキーボード（ワンタッチボタン付、無線方式、抗菌）

キー配列	105 キー (テンキー付) + ワンタッチボタン (5 ケ) + 音量調節ボタン (3 ケ) + パソコン 電源ボタン
インターフェース	RF (無線) 方式
使用可能範囲	パソコン本体から最大 10m (3m 以内を推奨)、左右約 45 度 (ただし、設置環境により短くなる場合があります)
使用電池	単 3 形アルカリ乾電池 2 本
乾電池の寿命の目安	毎日 2 時間の使用で約 6 ヶ月 (ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります)
外形寸法 (W × D × H)	約 437mm × 約 170mm × 約 35mm (チルト未使用時)
質量	約 1200g (乾電池含まず)

- キーボードのキートップ（ワンタッチボタンを除く）には、抗菌樹脂を使用しております。
- 抗菌樹脂は、通常の樹脂に比べ、付着した各種細菌の繁殖を低減するものですが、完全に抑止するものではありません。
- 抗菌樹脂には殺菌作用はありません。
- 試験機関：(財) 化学技術戦略推進機構 高分子試験・評価センター、(財) 日本化学繊維検査協会
- 試験方法：JIS Z 2801、フィルム密着法
- 抗菌の方法：抗菌剤の部品材料への練り込み

注：抗菌処理部分：キーボードのキートップ部分（キーボードのキートップ部分に刻印された文字およびワンタッチボタンは除く）

ワイヤレスマウス（光学式）

セレクトスイッチ動作形式	2 押ボタン、1 ホイール
インターフェース	RF（無線）方式
使用可能範囲	パソコン本体から最大 10m（3m 以内を推奨）、左右約 45 度 (ただし、設置環境により短くなる場合があります)
使用電池	単 3 形アルカリ乾電池 2 本
乾電池の寿命の目安	毎日 2 時間の使用で約 3 ヶ月 (ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります)
外形寸法（W × D × H）	約 60mm × 約 114mm × 約 35mm
質量	約 90g（電池含まず）



この本で見つからない情報は、「画面で見るマニュアル」で！

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→
「 富士通サービスアシスタント(マニュアル&サポート)」の「画面で見るマニュアル」

索引

C

CD/DVD	27
CD/DVD 取り出しボタン	8
CONNECT ボタン	12
CPU ファン	13

D

DDR2	55
DIMM	55

E

ECC	55
-----	----

I

ID 設定	41
IEEE1394 (DV) 端子	9

L

LAN コネクタ	11
LAN (有線 LAN) 機能	45
LINE 端子	11

M

Mute (消音) ボタン	24
---------------	----

P

PC カードスロット	9
PC カード取り出しボタン	9
PHONE 端子	11

S

SDRAM	55
SPD	55

U

USB コネクタ	9, 11
----------	-------

あ行

明るさ調節	25
明るさ調節つまみ	11
インターネットボタン	26
インレット	9
液晶ディスプレイ	8
液晶ディスプレイのお手入れ	63
お手入れ	61
音量調節	24

か行

各部名称	7
- キーボード	14
- パソコン本体前面	8
- パソコン本体側面	9
- パソコン本体内部	13
- パソコン本体背面	12
- ワンタッチボタン	26
キーボード	
- ID 設定	41
- 乾電池	40
キーボード／マウスアンテナ	8
コア	75
光学式マウス	44

さ行

サポートボタン	26
周辺機器	48
仕様	
- LAN 機能	83
- 液晶ディスプレイ	82
- 内蔵スピーカー	82
- パソコン本体	78
- ワイヤレスキーボード	83
- ワイヤレスマウス	84
- スーパーマルチドライブ	8
- スピーカー	8

た行

ダイレクトメモリースロット (SD カード、 メモリースティック、xD-ピクチャーカード)	9
通風孔	9, 11, 12
通風孔のお手入れ	64
電源	
- 入れる	19
- 一切る	21
- 一切れない場合	23
盗難防止用ロック取り付け穴	12

は行

ハードディスク／CD アクセスランプ	8
パソコン電源ボタン	8
パソコン電源ランプ	8
パソコン本体内部のお手入れ	64
バックアップボタン	26
光デジタルオーディオ出力端子	11
ヘッドホン端子	9
ボリュームボタン (+)	24
ボリュームボタン (-)	24
本体カバー	51

ま行

マイク端子	9
マウス	
－ ID 設定	41
－ 乾電池	40
メールボタン	26
メニュー ボタン	26
メモリ	54
－ 組み合わせ	55
－ 取り付ける	57
－ 持ちかた	56
メモリーカード	32
メモリスロット	13
メモリバスロック	55

ら行

ラインアウト端子	11
ラインイン端子	11

わ行

ワンタッチボタン	26
----------	----



Memo

Memo

FMV-DESKPOWER LX60T

FMV 取扱ガイド

B5FJ-0831-01-00

発行日 2006年8月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。